

## 參考資料

---

## 用語解説

### あ行

#### ▶ 1日最大給水量

水道事業者等から需要者に水を供給することを給水といい、年間の1日給水量のうち、最大のものを1日最大給水量といいます。

#### ▶ 1日平均給水量

年間の総給水量を年日数で除したものを1日平均給水量といいます。

#### ▶ 飲料水供給施設事業

飲料に適した水を供給する水道で、給水人口が100人以下の施設を飲料水供給施設といいます。宇治市では池尾地区の飲料水供給施設による事業を「飲料水供給施設事業」として運営していましたが、平成27年4月に上水道事業に統合しました。

#### ▶ SDGs

(Sustainable Development Goals)

2015年に国連サミットにおいて採択された国際目標です。貧困に終止符を打ち、地球を保護し、全ての人々が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけています。

#### ▶ 塩素消毒

細菌、ウイルスといった病原菌等を塩素の殺菌作用により消毒することです。

#### ▶ 応急給水

自然災害や水道施設の事故等により通常の給水ができなくなった場合に、緊急の水需要に対応することを目的として臨時に給水することです。配水池の貯留水を利用した仮設給水栓の開設、避難場所等への給水車や給水タンクによる飲料水の運搬等があります。

#### ▶ 応急復旧

自然災害等により水道施設に被害が発生した場合に、給水を早期に再開するために行う復旧作業のことです。

### か行

#### ▶ 簡易水道事業

給水人口が101人以上5,000人以下の水道事業のことです。宇治市では笠取・二尾地区の簡易水道事業を平成27年4月に上水道事業に統合しました。

#### ▶ 管網解析

水道管は給水区域内に網目状に布設されており、管網を形成しています。管の口径や延長、分岐の数等により複雑に変化する水の流れや水圧等を、数値計算、解析モデル、シミュレーターによる検証で明らかにすることです。

## ▶ 基幹管路

導水管、送水管、配水本管（配水管を参照）の総称のことです。

## ▶ 企業債

地方公営企業が行う建設、改良等に要する資金に充てるために起こす地方債（借入金）をいいます。

なお、借り入れた企業債のうち、未償還（未返済）の残高を企業債残高といいます（元金のみで利息は含まない）。また、企業債の発行後、各事業年度に支出する元金の償還額または一定期間に支出する元金償還金の総額を企業債償還金といい、地方公営企業の経理上、資本的支出として整理されます。

## ▶ 給水管

配水管から分岐して、各戸の給水栓（水道の蛇口）まで水道水を送る管のことです。

## ▶ 給水区域

水道事業者が厚生労働大臣の認可を受け、一般の需要に応じて給水を行うこととした区域をいいます。

## ▶ 給水原価

供給原価ともいいます。有収水量1 $\text{m}^3$ 当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表します。

## ▶ 給水収益

水道事業会計における営業収益の一つで、水道料金として収入になる収益のことです。

## ▶ 給水人口

給水区域内に居住し、水道により給水を

受けている人口のことです。なお、給水区域内に居住し、水道により給水を受けている戸数を給水戸数といいます。

## ▶ 供給単価

給水単価ともいいます。有収水量1 $\text{m}^3$ 当たりについて、どれだけの収益を得ているかを表すものです。

## ▶ 緊急遮断弁

地震や管路の破損等による異常な水の流れを感知して、自動的に閉止する機能を持った、配水池の流出管に設置する弁（バルブ）のことです。水の流れを遮断することで、下流の二次災害を防止するとともに、配水池の貯留水を確保し、応急給水等に利用することができます。

## ▶ 経常収益

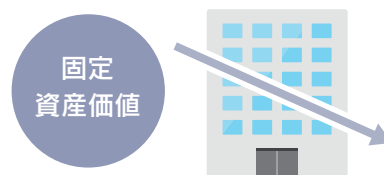
年間の給水サービスの対価としての収入で、主な内容は給水収益（水道料金）などです。

## ▶ 経常費用

年間の給水サービスに要する費用で、主な内容は人件費、修繕費、動力費、薬品費、受水費などです。

## ▶ 減価償却費

構築物や設備などの固定資産の価値は時間の経過とともに減ると考え、その額を支出として計上するものです。実際の支払いは発生せず、内部留保資金となります。



## ▶ 原水

浄水処理する前の水のことです。水道原水の大別としては地表水と地下水があり、地表水には河川水などが、地下水には井戸水などがあります。

## ▶ 建設改良費

公営企業の施設の整備や拡充、その価値の増加のために要する経費をいいます。

## ▶ 建設負担水量

京都府営水道に対し、受水市町が支払う建設負担料金の算定の基礎となるものです。

## ▶ 口径別料金体系

水道料金の設定を、水道メーターの口径の違いによって設定する方法です。口径別料金体系では、大きな口径のメーターを付けている使用者は、一度に多くの水を使うことができることから、口径が大きいほど水道施設の費用を多く負担すべきであると考え、一般的に基本料金や従量料金を高く設定しています。

## ▶ 国庫補助金

国が、主に地方自治体の財政負担軽減のため、地方自治体に交付する(地方財政法第16条)補助金です。

## さ行

## ▶ 残留塩素

水中に塩素を注入することによって水中に残留した有効塩素のことです。水道法の水質基準では衛生上の措置として、給水栓の管末で残留塩素を遊離残留塩素として

0.1mg/ℓ以上に保持するよう規定されています。

## ▶ 資金残高

営業活動から生じる純利益を源泉として確保している資金、また損益勘定留保資金(現金の支出を伴わない減価償却費などの企業内部に留保される自己資金)のうち翌年度以降へ繰り越している資金のことです。水道事業の継続的かつ安定的な運営のため、建設投資の財源確保や日常の資金繰り、不測の事態に備えた資金として、必要最低限の資金を常時確保しておく必要があります。

## ▶ 自己水

各々の水道事業体が独自で確保している水源から取水した水のことです。

## ▶ 自然流下

ポンプ等の動力を利用せずに、地盤の高低差による位置エネルギーを利用して水を流下させることをいいます。

## ▶ 実使用年数

税法上、固定資産ごとに定められる法定耐用年数に対し、対象資産が実際に使用に耐えうる期間のことをいいます。

## ▶ 指標菌検査

厚生労働省の「水道におけるクリプトスポリジウム等対策指針」に基づき、指標菌が原水に存在するかを検査することを指標菌検査といいます。



## ▶ 資本的収支

収益的収入および支出に属さない収入・支出のうち、現金の収支を伴うもので、主として建設改良および企業債に関する収入および支出のことです。資本的収入には企業債、出資金、国庫補助金などを計上し、資本的支出には建設改良費、企業債償還金などを計上します。

## ▶ 収益的収支

企業の経常的経営活動に伴って発生する収入と、これに対応する支出のことです。収益的収入には、給水サービス提供の対価である料金などの給水収益のほか、長期前受金戻入、受取利息などを計上し、収益的支出には、浄水処理に必要な費用のほか、京都府営水道からの受水費用、使用者へ水道水を送るための施設を維持管理するのに必要な人件費・修繕費等を計上します。また、企業債利息、さらには資産の取得に伴う減価償却費などのように、現金支出を伴わない経費なども含まれます。

## ▶ 受水費

水道用水供給事業者からの原水や浄水などの受水に要する費用です。宇治市では、京都府営水道から受水しています。

## ▶ 出資金

企業（公営企業）が事業を行うのに必要な経費に対して、出資者（地方公共団体）が提供した資金です。

## ▶ 浄水場

原水を飲料水（水道水）にするため、浄水処理を行う場所です。原水の水質状況に応じて構成される施設は異なりますが、主に

着水井（原水を受け入れる施設）、沈澱池（原水中の大きな物質を沈殿させる施設）、ろ過設備（原水中の小さな物質をろ過して除去する施設）、浄水池（消毒した水を貯める施設）等から構成されます。

## ▶ 浄水処理

安全な水道水としての水質を得るために、原水の水質状況に応じて水を浄化することです。汚濁物質を処理する工程と消毒を行う工程とを組み合わせたものが中心となります。

## ▶ 浄水発生土

浄水処理において発生したスラッジ（沈降したフロックが濃縮した泥状のもの）を濃縮、脱水したものです。

## ▶ 水質検査計画

水道の水源やその周辺の状況等を勘案し、どのように水質検査を実施するかについての計画を立案・文書化したものです。水道法により、水道事業者、水道用水供給事業者および専用水道の設置者は、水質検査計画の策定が義務付けられています。



## ▶ 水道事業

一般の需要に応じて、水道により水を供給する事業をいいます。ただし、給水人口が100人以下である水道によるものを除きます。なお、給水人口が5,000人を超える水道によるものは、慣用的に上水道事業と呼ばれています。

## ▶ 水道事業ガイドライン

水道のサービス水準の向上を目的として、水道施設の整備状況や経営状況など水道事業の状況をわかりやすく評価するため、公益社団法人日本水道協会が規格として制定したものです。

## ▶ 水道施設台帳

水道施設の位置、構造、設置時期等の施設管理上の基礎的事項を記載したもので、水道施設の適切な維持管理・更新を行ううえで必要となるものです。

## ▶ 水道施設の更新・耐震化

水道水を安全・安定的に供給し続けるため、水道施設を構成する管路、構造物、機械・電気設備は、経年劣化などに応じた更新が必要です。また、管路や構造物の耐震性が不足する場合は、耐震補強や施設更新による耐震化が必要です。

## ▶ 水道週間

厚生労働省、都道府県をはじめ各市町村の水道事業体等によって実施される様々な広報活動等の運動のことです。国民に対して、水道の現状や課題について理解を深め、今後の水道事業の取り組みについて協力を得ることを目的として、毎年6月1日から7日まで実施されています。

## ▶ 生活用水量原単位

一般家庭で使用される水のことを生活用水といい、1日の生活用水量を給水人口1人あたりに換算したものをいいます。



## ▶ 石綿セメント管

昭和30年代より全国の水道管に多く使用された石綿セメントを用いたコンクリート製の管です。長所として軽量で加工性が良いなどがある一方、強度面や耐衝撃性が劣るなどの短所があり、また、布設されてから長期間が経過し老朽化が進んでいることから、布設替えを進めています。

## ▶ 専用水道

寄宿舍、社宅、療養所等における自家用の水道その他水道事業の用に供する水道以外の水道で、100人を超える居住者に給水するもの、または、1日最大給水量が政令で定める基準を超えるものをいいます。ただし、他の水道から供給を受ける水のみを水源とし、かつ、その水道施設のうち地中または地表に施設されている部分の規模が政令で定める基準以下のものは除きます。

## ▶ 送水管

浄水場、ポンプ場等から配水池へ水道水を送る管のことです。

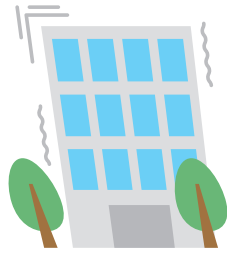
## た行

## ▶ 耐塩索性病原微生物

細菌やウイルスなどの多くは、浄水処理における適切な塩素消毒により不活化しますが、この処理だけでは不活化されないクリプトスポリジウムなどに代表される病原微生物のことです。

### ▶ 耐震化率

地震災害に対する浄水施設、配水池、管路等の安全性、信頼性を表す指標の一つで、全施設に対する耐震性のある施設の割合のことをいいます。  
(浄水施設は浄水施設能力、配水池は有効容量、管路は延長の割合で算出します。)



### ▶ 耐震管

地震において、継ぎ目の接合部分が離脱しない構造となっている管のことです。

### ▶ 耐震診断

構造物の耐震性能を評価する方法で、概略的な一次診断と、より詳細な方法による二次診断があります。

### ▶ 耐震適合性のある管路

耐震管以外でも管が布設された地盤の性状を勘案すれば耐震性があると評価できる管があり、それに耐震管を加えたものを耐震適合性のある管路と呼んでいます。

### ▶ 耐震適合率

地震災害に対する管路の安全性、信頼性を表す指標の一つで、管路の総延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合のことをいいます。

### ▶ ダウンサイジング

施設更新の際に、必要水量の減少に応じて既存施設よりも規模を小さくすることです。

### ▶ 地方公営企業

地方公共団体が、公共の福祉の増進を目

的として設置し、経営する企業のことです。上下水道、病院、交通、電気、ガスなど、公衆の日常生活に欠くことのできない公益事業が経営の対象となります。

### ▶ 铸铁管

鉄、炭素、ケイ素からなる鉄合金(铸铁)で作られた水道管です。布設されてから長期間が経過し老朽化が進んでいることから、布設替えを進めています。

### ▶ 長期前受金戻入

将来にわたって利用する資産(建物や機械設備など)を取得したとき、その財源に国庫補助金等が充当される場合には、その国庫補助金等は収入として一括計上せず、資産の耐用年数にわたって分割・計上します。その分割された収入を長期前受金戻入といい、減価償却費と対になるものです。

### ▶ 貯水槽水道

配水管からの水道水をいったん受水槽に貯めた後、建物の利用者に供給する施設です。

### ▶ 直結式給水

受水槽を設けず、配水管の水圧で各戸の給水栓まで水道水を送る方式、もしくは増圧設備を介して水道水を送る方式です。

### ▶ TOC(全有機炭素)

水中の有機物の量を、有機化合物を構成する炭素の量で示したもので、水質を示す指標の一つです。

## ▶ デジタルトランスフォーメーション

ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でもより良い方向に変化させるという概念のことです。企業がテクノロジー（IT）を利用して、事業の業績や対象範囲をより良く変化させるという意味合いで用いられます。



## ▶ 導水管

取水施設（井戸等）で取水した原水を浄水場へ導く管のことです。

## ▶ 独立採算制

事業に必要な経費を、経営に伴う収入（水道事業の場合は主に水道料金）をもって充てるしくみです。

## な行

## ▶ 内部留保資金

減価償却費などの現金流出を伴わない支出や収益的収支における利益によって、企業内に留保される自己資金のことです。将来の投資資金として確保されるほか、資本的収支の不足額における補填財源などに用いられます。

## ▶ 鉛製給水管

鉛を材料として作られた給水管のことです。鉛は柔らかく加工しやすい金属であるため、かつては給水管の材料として一般的に使用されていました。しかし、漏水が多いことや、水道水中の鉛濃度の水質基準が強化されたことなどから、布設替えを進めています。

## は行

## ▶ 配水管

配水池等から需要者へ水道水を送る管のことです。配水管は配水本管と配水支管に分類され、配水本管は給水管の分岐がないものであり、配水支管は給水管の分岐があるものです。宇治市では口径が300mm以上の配水管を配水本管、口径が250mm以下の配水管を配水支管としています。

## ▶ 配水区域の再編成

一群の配水施設から配水する区域を配水区域といい、地形等の自然的条件、浄水場等の施設の位置、水需要の実態などを考慮し設定します。将来の水需要を見据えた施設の規模・配置の適正化を図るとともに、平常時における水量・水圧の安定と災害時における給水の相互運用を図るため、順次、配水区域の変更を行っており、これを配水区域の再編成と呼んでいます。

## ▶ 配水池

浄水場、ポンプ場等から送り出された水道水を一時的に貯めておく施設のことです。配水量の時間変動を調整するなどの役割があります。配水池の多くは標高の高い場所にあり、適当な標高があれば標高差を利用した自然流下式の配水が可能となります。



## ▶ 府営水

京都府営水道から受水している水道水のことです。（詳細は16ページに掲載しています。）



## ▶ 普及率

給水区域内人口に対する給水人口の割合です。

## ▶ 負荷率

1日最大給水量に対する1日平均給水量の割合を表すものです。水道事業の施設効率を判断する指標の一つで、数値が大きいほど効率的であるとされています。

## ▶ 分水施設

災害などの非常時に水道用水供給事業者や他の水道事業者と水融通ができるよう、互いの管路を連絡管により接続した施設を分水施設と呼んでいます。宇治市では、京都市と相互融通が可能な相互分水施設、および京都府営水道から受水可能な緊急分水施設を設けています。

## ▶ 法定耐用年数

税法上で定められた耐用年数のことをいいます。水道事業の場合は地方公営企業法施行規則で定められています。

## ▶ ポンプ場

地形、構造物の立地または管路の状況など、諸条件に応じたポンプ圧送方式により、水道水を送る設備の設置場所のことです。

## ま行

## ▶ マッピングシステム

コンピュータを用いて、水道施設の地図情報に属性(管路口径や整備年度など)を関連付けて管理するとともに、地図上で視覚的にわかりやすく表示する情報システムのことです。施設の維持管理や更新計画立

案等において活用します。

## や行

## ▶ 有収水量

料金徴収の対象となった水量のことをいいます。

## ▶ 有収水量密度

給水区域面積1ha当たりの年間有収水量のことです。

## ▶ 有収率

給水量に対する有収水量の割合を表すもので、水道施設を通して供給される水が、どの程度収益につながっているかを確認できます。

## ▶ 用途別料金体系

水道料金の設定を、水道の用途別に料金を設定する方法です。用途別料金体系では、水道の用途を生活用(一般家庭)や業務・営業用などに分け、それぞれの水道使用者によって基本料金や従量料金を変えるもので、一般的には生活用に配慮した体系となっています。

# 施設概要

## 1) 浄水場の概要

浄水場は以下に示すとおりです。

### 浄水場施設

施設名：宇治浄水場

所在地：宇治市五ヶ庄高車1-2、尼ヶ塚1-2他

水系：淀川水系宇治川伏流水、地下水

計画能力：20,700m<sup>3</sup>/日 薬品沈殿、急速濾過、塩素滅菌処理

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
取水施設	伏流水井(浅井戸) RC造 巾2.05m×長2.05m×深11.7m 集水導水管 RC造、φ1.1m×長62m 接合井 RC造、巾2.1m×長2.1m×深8.5m 集水埋渠 有孔鉄筋コンクリート管、φ1.1m×長76m	1井	取水権 0.0579 m <sup>3</sup> /s 計画取水量 5,000 m <sup>3</sup> /日 改良 昭和52年7月
	取水ポンプ φ150mm×3.0m <sup>3</sup> /min×26m×22kW	2台	
	1号井(地下水) 鋼管 t=9.5、φ500mm、深100m 二重ケーシング FRP管 t=7、φ400mm、深100m	1井	計画取水量 3,360 m <sup>3</sup> /日 竣工 昭和56年6月
	取水ポンプ φ150mm×2.5m <sup>3</sup> /min×55m×37kW 揚水管φ150×長52.25m	1台	
	2号井(地下水) 鋼管 t=9.5、φ500mm、深100m 巻線型スクリーン(STK400) - SUS304	1井	計画取水量 3,360 m <sup>3</sup> /日 竣工 昭和52年7月 更新 平成24年5月
	取水ポンプ φ150mm×2.5m <sup>3</sup> /min×55m×37kW 揚水管φ150mm×長50.65m	1台	
	3号井(地下水) 鋼管 t=9.5、φ500mm、深100m 二重ケーシング 鋼管 t=7.0、φ400mm、深89.2m	1井	計画取水量 3,360 m <sup>3</sup> /日 竣工 昭和54年7月
	取水ポンプ φ150mm×2.5m <sup>3</sup> /min×55m×37kW 揚水管φ150mm×長55.0m	1台	
	4号井(地下水) SUS管 t=8.0、φ500mm、深100m 巻線型スクリーン SUS304	1井	計画取水量 3,360 m <sup>3</sup> /日 竣工 昭和58年5月 更新 平成31年3月
	取水ポンプ φ150mm×2.33m <sup>3</sup> /min×43m×37kW 揚水管φ150mm×長56m	1台	
	5号井(地下水) 鋼管 t=9.5、φ500mm、深150m	1井	計画取水量 3,360 m <sup>3</sup> /日 竣工 昭和61年2月
	取水ポンプ φ150mm×2.5m <sup>3</sup> /min×55m×37kW 揚水管φ150mm×長60.5m	1台	
	浄水施設	着水井(RC造、塗膜防水) 巾2.5m×長6.1m×深3.6m 容量55m <sup>3</sup>	1池
混和池(RC造、塗膜防水) 巾3.0m×長4.0m×深2.98m 容量36m <sup>3</sup>		1池	増設 昭和54年7月
脱炭酸槽(RC造、塗膜防水) 巾3.0m×長16.0m×深2.79m 容量計268m <sup>3</sup>		2池	(2号~4号ろ過機)
フラッシュミキサー 34.3rpm×2.2kW		2台	竣工 昭和55年8月
フロック形成池(RC造、塗膜防水) 巾5.5m×長5.4m×深2.74m 容量計326m <sup>3</sup>		4池	(汚泥処理施設)
フロキュレーター 7.79rpm×2.2kW		8台	
薬品沈殿池(RC造、塗膜防水、傾斜板使用) 1系 巾5.5m×長19.5m×深3.31m 2系 巾5.5m×長19.5m×深3.62m 容量計1,486m <sup>3</sup>		2池 2池	増設 昭和57年10月 (1号ろ過機)
濾過ポンプ池吸込井(RC造、塗膜防水) 巾15.4m×長1.8m×深1.14m 容量計63m <sup>3</sup>		2池	増設 昭和59年3月 (2系フロック形成池 ~薬品沈殿池)
急速濾過機(厚鋼材 t=9、マンガン砂濾過) φ5.6m×高6.7m 濾過面積25m <sup>2</sup> /基 濾過能力3,000m <sup>3</sup> /日・基		7基	
浄水池(RC造、塗膜防水) 巾21.8m×長19.5m×深2.3m 有効容量978m <sup>3</sup> (容量1,105m <sup>3</sup> )		1池	改良 平成6年3月 (消毒方法の変更)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要	
汚泥処理施設	排水濃縮槽 (RC造、塗膜防水) $\phi 11.6\text{m} \times \text{深 } 2.75\text{m}$ 容量 $290\text{m}^3$	1 池	更新 平成22年3月 (前塩素設備)	
	汚泥引抜ポンプ $\phi 100\text{mm} \times 0.8 \text{ m}^3/\text{min} \times 10 \text{ m} \times 5.5 \text{ kW}$	2 台		
	天日乾燥池 (RC造) 巾 $6.5 \text{ m} \times \text{長 } 15.0 \text{ m}$ 面積計 $487.5 \text{ m}^2$	5 池	更新耐震 平成30年3月 (浄水施設)	
	1号排水槽排泥ポンプ $\phi 80\text{mm} \times 0.75 \text{ m}^3/\text{min} \times 10 \text{ m} \times 3.7 \text{ kW}$	2 台		
	1号排水槽排水ポンプ $\phi 150\text{mm} \times 2 \text{ m}^3/\text{min} \times 18 \text{ m} \times 15 \text{ kW}$	2 台		
	ろ過機洗浄排水ポンプ $\phi 100\text{mm} \times 1.85 \text{ m}^3/\text{min} \times 14.3 \text{ m} \times 15 \text{ kW}$	1 台		
	ろ過機洗浄排水ポンプ $\phi 100\text{mm} \times 1.5 \text{ m}^3/\text{min} \times 18 \text{ m} \times 7.5 \text{ kW}$	1 台	更新耐震 平成31年3月 (汚泥処理施設)	
	返送水ポンプ $\phi 80\text{mm} \times 1.3 \text{ m}^3/\text{min} \times 13.3 \text{ m} \times 5.5 \text{ kW}$	1 台		
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 $5 \text{ m}^3/\text{基}$	2 基	更新耐震 令和2年3月 (浄水池・送水管)	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 (前塩) $310 \text{ mL}/\text{min} \times 0.5 \text{ Mpa} \times 0.4 \text{ kW}$	2 台		
	次亜塩素酸ソーダ注入機 (後塩) $110 \text{ mL}/\text{min} \times 50 \text{ m} \times 0.2 \text{ kW}$	1 台		
PAC注入設備	PAC貯留槽 容量 $4 \text{ m}^3/\text{基}$	2 基		
	PAC補助タンク 容量 $300\text{L}/\text{基}$	2 基		
	PAC移送ポンプ $100 \text{ L}/\text{min} \times 11.5 \text{ m} \times 0.2 \text{ kW}$	1 台		
	PAC注入機 $60\text{mL}/\text{min} \times 0.8 \text{ MPa} \times 44\text{W}$	2 台		
苛性ソーダ注入設備	苛性ソーダ希釈槽 容量 $14 \text{ m}^3/\text{基}$	1 基		
	苛性ソーダ貯留槽 容量 $22 \text{ m}^3/\text{基}$	1 基		
	苛性ソーダ注入機	$2.2 \text{ L}/\text{min} \times 1.0 \text{ MPa} \times 0.2 \text{ kW}$		2 台
		$2.0 \text{ L}/\text{min} \times 0.3 \text{ MPa} \times 0.4 \text{ kW}$		1 台
	移送ポンプ	$850 \text{ L}/\text{min} \times 8 \text{ m} \times 5.5 \text{ kW}$		1 台
		$230\text{L}/\text{min} \times 13 \text{ m} \times 2.2 \text{ kW}$		1 台
希釈槽攪拌機 (側面型) $2.2 \text{ kW}$	1 台			
濾過ポンプ設備	濾過ポンプ $\phi 100\text{mm} \times 2.3 \text{ m}^3/\text{min} \times 17.5 \text{ m} \times 11 \text{ kW}$	7 台		
	エゼクターポンプ $\phi 150\text{mm} \times 3.55 \text{ m}^3/\text{min} \times 11.5 \text{ m} \times 11 \text{ kW}$	1 台		
	$\phi 80\text{mm} \times 0.8 \text{ m}^3/\text{min} \times 21 \text{ m} \times 5.5 \text{ kW}$	1 台		
送水ポンプ設備	両吸込渦巻ポンプ (五ヶ庄配水池送水) $\phi 150\text{mm} \times 3.6 \text{ m}^3/\text{min} \times 75 \text{ m} \times 90 \text{ kW}$	5 台		
電気設備	受電電圧 $6.6 \text{ kV}$			
	トランス	$\bullet 3\phi 750 \text{ kVA } 6,600 \text{ V} / 440 \text{ V-220 V}$		2 台
		$\bullet 1\phi 30 \text{ kVA } 440 \text{ V} / 210 \text{ V-105 V}$		2 台
		$\bullet 3\phi 750 \text{ kVA } 6,600 \text{ V} / 440 \text{ V}$		1 台
		$\bullet 3\phi 200 \text{ kVA } 6,600 \text{ V} / 440 \text{ V}$		1 台
		$\bullet 3\phi 300 \text{ kVA } 440 \text{ V} / 210 \text{ V}$		1 台
		$\bullet 1\phi 75 \text{ kVA } 440 \text{ V} / 210 \text{ V-110 V}$		1 台
非常用発電機 (ディーゼル) $800 \text{ kW}, 6600 \text{ V}, 60 \text{ Hz}$	1 台			
監視設備	テレメーター親局 ①西小倉浄水場②神明浄水場③奥広野浄水場④下居P場 ⑤琵琶P場⑥五ヶ庄P場⑦金井戸P場⑧森本P場⑨広岡谷P場 ⑩明星町P場⑪平尾台P場⑫炭山第1P場⑬白川加圧P場 ⑭炭山中継P場⑮笠取第1中継P場⑯笠取第2中継P場⑰池尾浄水場受信	17 局		

浄水場施設

施設名：西小倉浄水場

所在地：宇治市伊勢田町中遊田5-1他

水系：地下水及び府営水

計画能力： $5,000\text{m}^3/\text{日}$ (自己水)  $5,000\text{m}^3/\text{日}$ (府営水第2分水受水

平成5年9月1日) 急速濾過、塩素滅菌処理

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
取水施設	1号井 (地下水) 鋼管 $t=9.5, \phi 500 \text{ mm}$ 、深 $200 \text{ m}$	1 井	計画取水量 $4,280 \text{ m}^3/\text{日}$
	二重ケーシング 鋼管 $t=7.9, \phi 350\text{mm}$ 、深 $200\text{m}$		
三重ケーシング 鋼管 $t=6.9, \phi 300\text{mm}$ 、深 $110.5\text{m}$			
	取水ポンプ $\phi 150\text{mm} \times 3.55\text{m}^3/\text{min} \times 38\text{m} \times 45\text{kW}$ 揚水管 $\phi 150 \times \text{長 } 71.5\text{m}$	1 台	竣工 平成元年5月
浄水施設	沈砂池 (RC造、シート防水) 巾 $3.8\text{m} \times \text{長 } 10\text{m} \times \text{深 } 2.27\text{m}$ 容量 $86 \text{ m}^3$	1 池	竣工 平成元年5月

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
浄水施設	曝気装置(鋼板製、充填バスケット方式) 巾2.1m×長2.1m×深3.1m 処理能力5,350 m <sup>3</sup> /日	1 基	増設 平成4年7月 (第2配水池)
	曝気ファン 30 m <sup>3</sup> /min×80 mmAq×1.5 kW	1 台	
	着水井(RC造、塗膜防水) 巾1.2m×長5.8m×深2.2m 容量15 m <sup>3</sup>	1 池	
	フラッシュミキサー 50 rpm×3.7 kW	1 台	
	濾過ポンプ井(RC造、塗膜防水) 巾6.0m×長14.0m×深3.1m 容量260 m <sup>3</sup>	1 池	
	急速濾過機(厚鋼材 t=14、圧力方式、マンガン砂濾過) φ3.85m×高2.0m 濾過面積11.63 m <sup>2</sup> /基 濾過能力2,675 m <sup>3</sup> /日・基	3 基	
	第1配水池(RC造、シート防水) 巾22.0m×長25.0m×深4.5m 容量2,475 m <sup>3</sup>	1 池	
	第2配水池(RC造、シート防水) 巾36.5m×長22.0m×深4.0m 容量3,212 m <sup>3</sup>	1 池	
	配水ポンプ井(RC造、シート防水) 巾12.0m×長22.0m×深4.5m 容量1,188 m <sup>3</sup>	1 池	
汚泥処理 施設	排水濃縮槽(RC造、塗膜防水) φ4.5m×深3.5m 容量56 m <sup>3</sup>	1 池	
	汚泥引抜ポンプ φ40mm×0.21 m <sup>3</sup> /min×10.5 m×1.5 kW	2 台	
	天日乾燥池(RC造) 巾4.0m×長6.6m 面積計52.8 m <sup>2</sup>	2 池	
	上澄水返送ポンプ φ150mm×3.1 m <sup>3</sup> /min×4.6 m×5.5 kW	2 台	
	汚泥移送ポンプ φ80mm×0.86 m <sup>3</sup> /min×9.5 m×3.7 kW	2 台	
	排水ポンプ φ150mm×1.6 m <sup>3</sup> /min×8.5 m×5.5 kW	2 台	
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量5 m <sup>3</sup> /基	2 基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機(前塩) 120mL/min×0.5MPa×25W	2 台	
	次亜塩素酸ソーダ注入機(後塩) 100mL/min×0.5MPa×0.2kW	2 台	
PAC注入 設備	PAC貯留槽 容量3 m <sup>3</sup> /基	2 基	
	PAC補助タンク 100 L/基	1 基	
	PAC移送ポンプ 0.56 L/min×0.5 MPa×0.4 kW	2 台	
	PAC注入機 39.6 mL/min×1.0 MPa×44 W	1 台	
苛性ソーダ 注入設備	苛性ソーダ貯留槽 容量3 m <sup>3</sup> /基	1 基	
	苛性ソーダ注入機 205 mL/min×0.4 MPa×17 W	1 台	
濾過ポンプ 設備	濾過ポンプ(単段渦巻ポンプ) φ100mm×1.94m <sup>3</sup> /min×21m×11kW	4 台	
	逆洗浄ポンプ(単段渦巻ポンプ) φ200mm×6.99m <sup>3</sup> /min×21m×37kW	2 台	
配水ポンプ 設備	多段渦巻ポンプ(直接給水)		
	可変ポンプ(48~60Hz) φ150mm×3.42 m <sup>3</sup> /min×54 m×45 kW	2 台	
	定速ポンプ φ150mm×2.97 m <sup>3</sup> /min×54 m×45 kW	4 台	
	加圧タンク方式(小流量時使用) タンク内容量4 m <sup>3</sup> 使用圧力0.33~0.456 MPa	1 基	
電気設備	水中ポンプ φ80mm×1.5 m <sup>3</sup> /min×45 m×15 kW	2 台	
	受電電圧(常用予備切替方式) 6.6 kV		
	トランス ・3φ 950 kVA 6,600 V / 420 V-210 V ・1φ 30 kVA 420 V / 210 V-105 V	2 台 1 台	
監視設備	テレメーター子局 ・宇治浄水場送信	1 局	

### 浄水場施設

施設名：神明浄水場

所在地：宇治市神明宮東96-5他

水系：地下水及び府営水(東山配水池より流入)

計画能力：1,100m<sup>3</sup>/日 塩素滅菌処理

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
取水施設	3号井(地下水) 鋼管 t=7.9、φ400 mm、深197 m	1 井	計画取水量 1,155 m <sup>3</sup> /日  竣工 昭和50年5月
	取水ポンプφ100mm×1.1m <sup>3</sup> /min×90m×30kW 揚水管φ100mm×長115.5m	1 台	

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
浄水施設	第1配水池 (RC造、塗膜防水) 容量 122 m <sup>3</sup> 巾6.4m×長7.5m×深2.55m	1 池	竣工 昭和18年
	第2配水池 (RC造、塗膜防水) 容量 95 m <sup>3</sup> 巾5.0m×長9.0m×深2.1m 容量計217 m <sup>3</sup>	1 池	移管 昭和32年 3月 竣工 昭和47年11月
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 500 L 容量400 L	各1基	(送水ポンプ設備)
	次亜塩素酸ソーダ注入機 80 mL/min×1.0 MPa×24W	2 台	改築 昭和62年 3月
電気設備	受電電圧 110V		(浄水池家屋)
監視設備	信号ケーブルにて		改良 平成 4年 6月 (電気設備・ポンプ)
	・神明第3号取水井受信		
	テレメーター親局	1 局	
	・神明高区配水池受信		
	テレメーター子局	1 局	
	・宇治浄水場送信		

浄水場施設

施設名：奥広野浄水場

所在地：宇治市広野町尖山6-20

水系：地下水及び府営水(折居台配水池より流入)

計画能力：1,000m<sup>3</sup>/日 塩素滅菌処理

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
取水施設	1号井(地下水) 鋼管 t=6、φ300 mm、深 130 m	1 井	計画取水量 1,050 m <sup>3</sup> /日
	取水ポンプφ100mm×1.32m <sup>3</sup> /min×76m×30kW 揚水管φ100mm×長99.0m	1 台	
浄水施設	浄水池 (RC造、モルタル防水) 巾 5.0 m×長 4.0 m×深 1.3 m 有効容量 26 m <sup>3</sup> (容量 50 m <sup>3</sup> )	1 池	竣工 昭和45年10月 移管 昭和50年 8月
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 100 L/基	1 基	改良 平成 6年 3月 (配水ポンプ)
	次亜塩素酸ソーダ注入機 60 mL/min×0.8 MPa×43 W	1 台	
配水ポンプ設備	加圧タンク方式 タンク内容量 5 m <sup>3</sup> 使用圧力 0.59~0.78 Mpa	1 基	(気圧タンク)
	多段込渦巻ポンプ φ65mm×0.45 m <sup>3</sup> /min×60 m×11 kW	3 台	
電気設備	受電電圧 6.6 kV		
	トランス		
	・ 3φ100 kVA 6,600 V / 210 V ・ 1φ 10 kVA 6,600 V / 210V-105 V	1 台 1 台	
監視設備	テレメーター子局	1 局	・宇治浄水場送信

浄水場施設

施設名：池尾浄水場

所在地：宇治市池尾南組11-5

水系：地下水

計画能力：8.8m<sup>3</sup>/日 急速濾過、塩素滅菌処理

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
取水施設	1号井(地下水) VP、φ300 mm、深 130 m	1 井	計画取水量 9.7 m <sup>3</sup> /日
	取水ポンプ φ32mm×0.05m <sup>3</sup> /min×87m×1.5kW 揚水管32A×長60.0m	1 台	
浄水施設	浄水池 (RC造、モルタル防水) 巾1.0m×長1.7m×深1.05m 有効容量 1.8 m <sup>3</sup> (容量 2.6 m <sup>3</sup> )	1 池	竣工 平成12年6月
	急速濾過機 (鋼鉄製) (除鉄装置) φ500mm×高 1.8 m 濾過面積 0.196m <sup>2</sup> /基 濾過能力 9.7m <sup>3</sup> /日	2 基	
	滅菌設備		
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 PVC 容量 50 L/基	1 基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 2~9 mL/min×0.7 MPa×25 W	2 台	
苛性ソーダ注入設備	苛性ソーダ貯留槽 PVC 容量 50L/基	1 基	
	苛性ソーダ注入機 2~9 mL/min×0.7 MPa×25 W	1 台	
濾過ポンプ	逆洗ポンプ (片吸込渦巻ポンプ) φ40mm×φ32mm×0.2m <sup>3</sup> /min×13m×0.75kW	2 台	
配水ポンプ	多段込渦巻ポンプ φ40mm×0.06 m <sup>3</sup> /min×59 m×3.7kW	2 台	
電気設備	受電電圧 220 V 及び110 V		
監視設備	テレメーター親局	1 局	・池尾配水池受信 ・宇治浄水場送信
	テレメーター子局	1 局	

## 2) 配水池・ポンプ場の概要

配水池・ポンプ場は以下に示すとおりです。

### 配水池施設

施設名：東山配水池

所在地：宇治市宇治東山43-1

水系：府営水(下居ポンプ場及び折居台配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	第1配水池(RC造、有効容量計1,116 <sup>m</sup> <sub>3</sub> ) 巾9.3m×長15m×深4m	2池	竣工 昭和41年5月 増設 昭和47年5月 (第2配水池)
	第2配水池(RC造、有効容量計1,506 <sup>m</sup> <sub>3</sub> ) 巾12.55m×長15m×深4m	2池	
電動弁	電動仕切弁 φ200mm×0.4 kW	1台	増設 昭和61年2月 (電動弁)
電気設備	受電電圧 220V		
監視設備	テレメーター子局 ・下居ポンプ場送信	1局	

### 配水池施設

施設名：神明高区配水池

所在地：宇治市宇治大谷40-2

水系：府営水(折居台配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	第1配水池(PC造、有効容量613 <sup>m</sup> <sub>3</sub> ) φ12.5m×深5m	1池	竣工 昭和47年11月 増設 昭和54年11月 (第2配水池)
	第2配水池(PC造、有効容量1,108 <sup>m</sup> <sub>3</sub> ) φ16.8m×深5m	1池	
電動弁	電動仕切弁 φ200mm×0.75kW	1台	増設 昭和57年3月 (電動弁)
電気設備	受電電圧 220V及び110V		
監視設備	テレメーター子局 ・神明浄水場送信	1局	

### 配水池施設

施設名：白川圧力調整池

所在地：宇治市白川三西原4-1

水系：府営水(折居台配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量計115 <sup>m</sup> <sub>3</sub> 巾3.9m×長4.9m×深3m	2池	竣工 昭和42年4月

### 配水池施設

施設名：高峰山配水池

所在地：宇治市五ヶ庄高峰山2-2

水系：自己水(五ヶ庄ポンプ場より送水)及び府営水(森本ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	第1配水池(PC造、有効容量2,076 <sup>m</sup> <sub>3</sub> ) φ23m×深5.0m	1池	竣工 昭和46年12月 増設 昭和56年12月 (第2配水池)
	第2配水池(PC造、有効容量1,005 <sup>m</sup> <sub>3</sub> ) φ16m×深5.0m	1池	
電動弁	電動仕切弁 φ350mm×1.5kW	1台	増設 昭和60年2月 (電動弁)
緊急遮断弁	(第2配水池設置)口径300mm	1台	
電気設備	受電電圧 220V及び110V		
監視設備	テレメーター子局 ・森本ポンプ場送信	1局	増設 平成17年3月 (緊急遮断弁)

### 配水池施設

施設名：明星町配水池

所在地：宇治市菟道郷原2-1の内

水系：府営水(明星町ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	PC造、有効容量883 <sup>m</sup> <sub>3</sub> φ15.0m×深5m	1池	竣工 平成14年3月
電気設備	受電電圧 110V		
監視設備	テレメーター子局 ・明星町ポンプ場送信	1局	

配水池施設

施設名：炭山高区配水池  
 所在地：宇治市炭山乾谷2-3  
 水系：自己水及び府営水(炭山第2ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量計104m <sup>3</sup> 巾2.7m×長5.5m×深3.5m	2池	竣工 平成9年3月
電動弁	φ150mm×1.5kW(電動仕切弁) φ150mm×1.5kW(電動バイパス用バタ弁)	1台 1台	
電気設備	受電電圧 220V及び110V		改良 平成24年4月
監視設備	テレメーター親局 ・炭山低区配水池受信(信号ケーブル) テレメーター子局 ・炭山第2ポンプ場送信(信号ケーブル)	1局 1局	

配水池施設

施設名：炭山低区配水池  
 所在地：宇治市炭山久田57-1他  
 水系：自己水及び府営水(炭山高区配水池より流入及び炭山第2ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量計113m <sup>3</sup> 巾2.7m×長6.0m×深3.5m	2池	竣工 平成9年3月
電動弁	電動仕切弁 φ150mm×1.5kW	1台	
電気設備	受電電圧 220V及び110V		改良 平成24年4月
監視設備	テレメーター子局 ・炭山高区配水池送信(信号ケーブル)	1局	

配水池施設

施設名：炭山中継調整池  
 所在地：宇治市炭山滝ノ元1-2  
 水系：自己水及び府営水(炭山中継ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	ステンレスパネルタンク、有効容量計30m <sup>3</sup> 巾3.0m×長2.0m×深2.5m	2池	竣工 平成25年9月
電気設備	受電電圧 110V		
監視設備	テレメーター子局 ・炭山中継ポンプ場送信	1局	

配水池施設

施設名：二尾配水池  
 所在地：宇治市二尾金剛谷7-10  
 水系：自己水及び府営水(炭山中継調整池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量計50.4m <sup>3</sup> 巾2.0m×長4.2m×深3.0m	2池	竣工 平成9年3月
調節弁	自動水位調整弁 75A	1台	
電気設備	受電電圧 110V		改良 平成26年3月
監視設備	テレメーター子局 ・二尾圧力調整池送信	1局	

配水池施設

施設名：二尾圧力調整池  
 所在地：宇治市二尾宇川5-4  
 水系：自己水及び府営水(炭山中継調整池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量 15.5m <sup>3</sup> 巾1.55m×長4.55m×深2.2m	1池	竣工 平成12年4月
調節弁	自動水位調整弁 75A	1台	
電気設備	受電電圧 110V		改良 平成26年3月
監視設備	テレメーター親局 ・二尾配水池受信 テレメーター子局 ・炭山中継ポンプ場送信	1局 1局	

## 配水池施設

施設名：笠取第2配水池

所在地：宇治市東笠取大平40-2・稲出1-2

水系：自己水及び府営水(笠取第2ポンプ場及び笠取第5ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量39.9m <sup>3</sup> 巾3.5m×長5.7m×深2.0m	1池	竣工 昭和59年12月
電気設備	受電電圧 110V		改良 平成26年3月
監視設備	テレメーター親局	1局	
	テレメーター子局	1局	

## 配水池施設

施設名：笠取圧力調整池

所在地：宇治市東笠取平出 55-4

水系：自己水及び府営水(笠取第2配水池より流入及び笠取第2ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量2.7m <sup>3</sup> 巾1.5m×長1.8m×深1.0m	1池	竣工 昭和59年12月
調節弁	自動水位調整弁 75A	1台	改良 平成26年3月
電気設備	受電電圧 110V		
監視設備	テレメーター子局	1局	

## 配水池施設

施設名：笠取第4配水池

所在地：宇治市西笠取中島27-2

水系：自己水及び府営水(笠取第3ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量33.6m <sup>3</sup> 巾3.5m×長4.8m×深2.0m	1池	竣工 昭和59年12月
電気設備	受電電圧 110V		改良 平成26年3月
監視設備	テレメーター子局	1局	

配水池及び  
ポンプ場施設

施設名：下居配水池及び下居ポンプ場

所在地：宇治市宇治下居64-1他

水系：府営水(府営水第1受水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	第1配水池(RC造、有効容量 900m <sup>3</sup> ) 巾12.5m×長16.0m×深4.5m	1池	竣工 昭和40年3月
	第2配水池(RC造、有効容量 計1,540m <sup>3</sup> ) 巾10.9m×長15.7m×深4.5m	2池	増設 昭和41年
	第3配水池(RC造、有効容量 計5,441m <sup>3</sup> ) 巾15.5m×長26.0m×深4.5m	3池	(第1配水池)
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ(東山配水池送水) φ150mm×2.5m <sup>3</sup> /min×65m×55kW	2台	増設 昭和47年
	φ125mm×1.6m <sup>3</sup> /min×62m×30kW	2台	(第3配水池)
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 3m <sup>3</sup> /基	2基	増設 昭和48年
	次亜塩素酸ソーダ注入機 容量 100L/基	1基	
電気設備	次亜塩素酸ソーダ注入機 68mL/min×0.7MPa×25W	1台	(送水ポンプ)
	受電電圧 6.6kV		増設 昭和55年
	トランス		(滅菌設備)
		・3φ150kVA 6,600V / 420V	1台
	・3φ100kVA 6,600V / 210V	1台	
	・1φ 20kVA 6,600V / 210V -105V	1台	
監視設備	テレメーター親局	1局	
	テレメーター子局	1局	



配水池及び  
ポンプ場施設

施設名：琵琶配水池及び琵琶ポンプ場  
所在地：宇治市宇治琵琶45-2の内  
水系：府営水(下居配水池と連通φ700mm)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量計6,130 m <sup>3</sup> 巾17.6 m×長38.7 m×深4.5 m	2 池	竣工 昭和50年 6月
送水ポンプ	両吸込渦巻ポンプ(折居台配水池送水)φ150mm×2.9m <sup>3</sup> /min×84m×90kW	4 台	増設 昭和54年10月
緊急遮断弁	φ 600 mm (第1配水池に設置)	1 台	(送水ポンプ)
電気設備	受電電圧(常用予備切替方式) 6.6kV		増設 平成16年 7月
	トランス	1 台	(緊急遮断弁)
	・ 3φ500 kVA 6,600 V / 420 V ・ 3φ 30 kVA 6,600 V / 210 V ・ 1φ 20 kVA 6,600 V / 210 V- 105 V	1 台 1 台 1 台	耐震補強工事 平成28年12月
監視設備	テレメーター親局	2 局	
	テレメーター子局	1 局	

配水池及び  
ポンプ場施設

施設名：五ヶ庄配水池及び五ヶ庄ポンプ場  
所在地：宇治市五ヶ庄三番割25-2他  
水系：自己水(宇治浄水場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	第1配水池(RC造、有効容量 1,107 m <sup>3</sup> ) 巾13.3m×長18.5m×深4.5m	1 池	竣工 昭和56年 6月
	第2配水池(RC造、有効容量 1,767 m <sup>3</sup> ) 巾11.9m×長33.0m×深4.5m	1 池	改築 昭和56年 9月
	第3配水池(RC造、有効容量計5,227 m <sup>3</sup> ) 巾12.0m×長48.4m×深4.5m	2 池	(第1配水池)
送水ポンプ	単段渦巻ポンプ(高峰山配水池送水) φ125mm×4.0m <sup>3</sup> /min×30m×30kW	3 台	(送水ポンプ)
緊急遮断弁	φ 600 mm (第3配水池に設置)	1 台	増設 昭和61年 9月
電気設備	受電電圧 6.6kV		(送水ポンプ)
	トランス	1 台	増設 平成 7年12月
	・ 3φ150 kVA 6,600 V / 220 V ・ 1φ 20 kVA 6,600 V / 210 V -105 V	1 台	(第3配水池)
監視設備	テレメーター子局	1 局	(緊急遮断弁)

配水池及び  
ポンプ場施設

施設名：須留配水池及び炭山第1ポンプ場  
所在地：宇治市木幡須留4-15他

須留配水池 水系：自己水及び府営水(広岡谷ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	第1配水池(RC造、有効容量計800 m <sup>3</sup> ) 巾8.15m×長10.9m×深4.5m	2 池	竣工 昭和47年 7月
	第2配水池(RC造、有効容量計1,215 m <sup>3</sup> ) 巾7.5m×長18.0m×深4.5m	2 池	増設 平成 9年 8月
緊急遮断弁	φ350mm(第2配水池に設置)	1 台	(第2配水池)
電気設備	受電電圧 110V		(緊急遮断弁)
監視設備	テレメーター子局	1 局	・広岡谷ポンプ場送信

炭山第1ポンプ場 水系：自己水及び府営水(須留配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	RC造、有効容量 10 m <sup>3</sup> 巾1.5 m×長4.3 m×深1.5 m	1 池	竣工 平成 8年 3月
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ φ60mm×0.36 m <sup>3</sup> /min×83 m×11 kW	2 台	改良 平成24年 7月
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 100 L/基	2 基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 30 mL/min×1.5 MPa×70 W	2 台	
電動弁	電動仕切弁 φ100mm×0.2 kW	1 台	
電気設備	受電電圧 220 V及び110 V		
監視設備	テレメーター親局	1 局	・炭山第2ポンプ場受信(信号ケーブル)
	テレメーター子局	1 局	・宇治浄水場送信

配水池及び  
ポンプ場施設

施設名：笠取第1配水池及び笠取第1ポンプ場  
所在地：宇治市東笠取奥出14-2  
水系：自己水及び府営水(笠取第1中継ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量49.8m <sup>3</sup> 巾3.5m×長5.7m×深2.5m	1池	竣工 昭和59年12月
送水ポンプ	単段渦巻ポンプ φ40mm×0.086m <sup>3</sup> /min×61m×3.7kW	2台	
電気設備	受電電圧 220V及び110V		改良 平成26年3月
監視設備	信号ケーブルにて ・笠取第2ポンプ場受信 テレメーター子局 ・笠取第1中継ポンプ場送信	1局	

配水池及び  
ポンプ場施設

施設名：笠取第3配水池及び笠取第3ポンプ場  
所在地：宇治市西笠取相月川西17-2  
水系：自己水及び府営水(笠取第1中継ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量35.7m <sup>3</sup> 巾3.5m×長5.1m×深2.0m	1池	竣工 昭和59年12月
送水ポンプ	単段渦巻ポンプ φ40mm×0.04m <sup>3</sup> /min×75m×3.7kW	2台	
電気設備	受電電圧 220V及び110V		改良 平成26年3月
監視設備	テレメーター親局 ・笠取第4配水池受信 テレメーター子局 ・笠取第1中継ポンプ場送信	1局	

配水池及び  
ポンプ場施設

施設名：笠取第5配水池及び笠取第5ポンプ場  
所在地：宇治市西笠取赤坂32-12  
水系：自己水及び府営水(笠取第4ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量計105.8m <sup>3</sup> 巾2.7m×長5.6m×深3.5m	2池	竣工 平成10年3月
	ステンレスパネルタンク、有効容量計56m <sup>3</sup> 巾4.0m×長2.0m×深3.5m	2池	
送水ポンプ 設備	立形多段ポンプ φ25mm×0.052m <sup>3</sup> /min×107m×3kW	2台	改良 平成26年3月
	エアチャンバー(屋内型) 蓄圧式 0.26m <sup>3</sup>	1台	
電気設備	受電電圧 220V及び110V		増設 令和2年9月 (ポンプ室)
監視設備	テレメーター親局 ・笠取第2配水池受信 テレメーター子局 ・笠取第4ポンプ場送信	1局	

ポンプ場施設

施設名：金井戸ポンプ場  
所在地：宇治市宇冶金井戸7-21  
水系：府営水(白川圧力調整池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	RC造、有効容量33m <sup>3</sup> 巾3.0m×長5.0m×深2.2m	1池	竣工 昭和40年3月
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ φ65mm×0.35m <sup>3</sup> /min×113m×15kW	2台	改良 昭和61年3月
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量180L/基	1基	改良 平成11年11月 (送水ポンプ更新等)
	次亜塩素酸ソーダ注入機 19mL/min×0.7MPa×25W	1台	
電気設備	受電電圧 220V及び110V		
監視設備	テレメーター親局 ・金井戸加圧ポンプ場受信	1局	
	テレメーター子局 ・宇治浄水場送信	1局	

ポンプ場施設

施設名：森本ポンプ場  
所在地：宇治市菟道森本1-11  
水系：府営水(下居配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
送水ポンプ	両吸込渦巻ポンプ(羽戸山・高峰山配水池送水) φ100mm×3.9 m <sup>3</sup> /min×80 m×90 kW	4 台	竣工 昭和46年 9月 改良 昭和60年 3月 改良 平成 8年 3月 (電気設備及び ・送水ポンプ更新等) 耐震補強工事 平成25年 3月
電気設備	受電電圧(常用予備切替方式) 6.6 kV		
	トランス ・3φ500 kVA 6,600 V / 440 V ・3φ 10 kVA 440 V / 210 V ・1φ 10 kVA 440 V / 210 V -105 V	1 台 1 台 1 台	
監視設備	テレメーター親局 ・羽戸山配水池受信 ・高峰山配水池受信 テレメーター子局 ・宇治浄水場送信	2 局 1 局	

ポンプ場施設

施設名：広岡谷ポンプ場  
所在地：宇治市木幡南山15-19  
水系：自己水及び府営水(高峰山配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ(須留配水池送水) φ125mm×2.0m <sup>3</sup> /min×58m×37kW	3 台	竣工 昭和 47年 改良 昭和62年 7月 (電気設備及び ・送水ポンプ更新等)
電気設備	受電電圧 6.6 kV		
	トランス ・3φ150 kVA 6,600 V / 220 V ・1φ 10 kVA 6,600 V / 210 V -105 V	1 台 1 台	
監視設備	テレメーター親局 ・須留配水池受信 テレメーター子局 ・宇治浄水場送信	1 局 1 局	

ポンプ場施設

施設名：明星町ポンプ場  
所在地：宇治市明星町1丁目1-26他  
水系：府営水(森本ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	RC造、有効容量計57 m <sup>3</sup> 巾 3.84 m×長 3.69 m×深 2.0 m	2 池	竣工 昭和 46年 改良 平成14年 1月 (電気設備及び ・送水ポンプ更新等)
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ(明星町配水池送水) φ100mm×1.2m <sup>3</sup> /min×78m×30kW	2 台	
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 200L/基 角形タンク	2 基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 73 mL/min×1.0 MPa×17 W	2 台	
調節弁	自動水位調整弁 φ150mm	1 台	
電気設備	受電電圧 220 V及び110 V		
	非常用発電機(ディーゼル) 79.4kW,3φ220V,60Hz	1 台	
監視設備	テレメーター親局 ・明星町配水池受信 テレメーター子局 ・宇治浄水場送信	1 局 1 局	

ポンプ場施設

施設名：平尾台ポンプ場  
所在地：宇治市平尾台4丁目1-1  
水系：自己水及び府営水(須留配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	RC造、有効容量 126 m <sup>3</sup> 巾 7.5 m×長 8.0 m×深 2.1 m	1 池	竣工 昭和63年 8月
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ(平尾台配水池送水) φ125mm×1.25m <sup>3</sup> /min×73m×30kW	2 台	
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 500 L/基	1 基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 30 mL/min×1.5 MPa×30 W	2 台	
調節弁	自動水位調整弁 φ300mm	1 台	
電気設備	受電電圧 220 V 及び110 V		
監視設備	テレメーター親局 ・平尾台配水池受信 テレメーター子局 ・宇治浄水場送信	1 局 1 局	

ポンプ場施設

施設名：炭山第2ポンプ場  
 所在地：宇治市木幡南原2-19  
 水系：自己水及び府営水(炭山第1ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	RC造、有効容量 7 m <sup>3</sup> 巾 1.8 m×長 3.4 m×深 1.1 m	1 池	竣工 平成 8年 3月
	ステンレスパネルタンク、有効容量22.5m <sup>3</sup> 巾2.5m×長6.0m×深1.5m	1 池	
送水ポンプ 設備	多段渦巻ポンプ φ65mm×0.38 m <sup>3</sup> /min×97 m×15 kW	2 台	改良 平成25年11月
	エアチャンバー(屋外型) 蓄圧式 0.26m <sup>3</sup>	1 台	
電気設備	受電電圧 220 V 及び110 V		
監視設備	テレメーター親局 ・炭山高区配水池受信 (信号ケーブル)	1 局	
	テレメーター子局 ・炭山第1ポンプ場送信 (信号ケーブル)	1 局	

ポンプ場施設

施設名：炭山中継ポンプ場  
 所在地：宇治市炭山滝ノ元8-4  
 水系：自己水及び府営水(炭山高区配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	RC造、有効容量 計30 m <sup>3</sup> 巾 2.5 m×長 3.0 m×深 2.0 m	2 池	竣工 平成25年 9月
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ φ50mm×0.25 m <sup>3</sup> /min×79 m×7.5 kW	2 台	
電動弁	電動仕切弁 φ100mm×0.2 kW	1 台	
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 100 L/基	2 基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 30 mL/min×1.0 MPa×15 W	2 台	
電気設備	受電電圧 220 V 及び110 V		
監視設備	テレメーター親局 ・炭山中継調整池受信 ・二尾圧力調整池受信	2 局	
	テレメーター子局 ・宇治浄水場送信	1 局	

ポンプ場施設

施設名：笠取第2中継ポンプ場  
 所在地：宇治市西笠取引坂70-9・73-3  
 水系：自己水及び府営水(二尾圧力調整池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	RC造、有効容量 計20.2 m <sup>3</sup> 巾 1.95 m×長 2.3 m×深 1.5 m	3 池	竣工 平成10年 8月
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ φ50mm×0.229 m <sup>3</sup> /min×77 m×7.5 kW	2 台	
調節弁	自動水位調整弁 75A	1 台	改良 平成26年 3月
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 100 L/基	1 基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 60 mL/min×1.0 MPa×18 W	1 台	
	68 mL/min×0.7 MPa×25 W	1 台	
電気設備	受電電圧 220 V 及び110 V		
監視設備	テレメーター親局 ・笠取第4ポンプ場受信	1 局	
	テレメーター子局 ・宇治浄水場送信	1 局	

ポンプ場施設

施設名：笠取第4ポンプ場  
 所在地：宇治市西笠取赤坂21-9  
 水系：自己水及び府営水(笠取第2中継ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	RC造、有効容量 6.4 m <sup>3</sup> 巾 1.5 m×長 4.3m×深 1.0 m	1 池	竣工 平成 10年 3月
	ステンレスパネルタンク、有効容量7.5m <sup>3</sup> 巾2.5m×長3.0m×深1.5m	1 池	
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ φ50mm×0.229 m <sup>3</sup> /min×77 m×7.5 kW	2 台	改良 平成26年 3月
電気設備	受電電圧 220 V 及び110 V		
監視設備	テレメーター親局 ・笠取第5ポンプ場受信	1 局	
	テレメーター子局 ・笠取第2中継ポンプ場送信	1 局	

ポンプ場施設

施設名：笠取第1中継ポンプ場

所在地：宇治市西笠取石原7～11

水系：自己水及び府営水(笠取第5配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	RC造、有効容量 3.2 m <sup>3</sup> 巾 1.2 m×長 2.7 m×深 1.0 m	1 池	竣工 昭和59年 8月
	RC造、有効容量 3.3 m <sup>3</sup> 巾 1.5 m×長 2.2m×深 1.0 m	1 池	
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ(第1配水池系) φ40mm×0.10 m <sup>3</sup> /min×86 m×5.5 kW	2 台	改良 平成26年 6月
	(第3配水池系) φ40mm×0.16 m <sup>3</sup> /min×72 m×5.5 kW	2 台	
調節弁	自動水位調整弁 75A	1 台	
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 25 L/基	1 基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 73 mL/min×1.0 MPa×18W	1 台	
	30 mL/min×1.0 MPa×15W	1 台	
電気設備	受電電圧 220 V 及び110 V		
監視設備	テレメーター親局 ・笠取第1ポンプ場受信 ・笠取第3ポンプ場受信	2 局	
	テレメーター子局 ・宇治浄水場送信	1 局	

ポンプ場施設

施設名：笠取第2ポンプ場

所在地：宇治市東笠取奥出8-2

水系：自己水及び府営水(笠取第1ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	RC造、有効容量 2.4 m <sup>3</sup> 巾 1.2 m×長 2.0m×深 1.0 m	1 池	竣工 昭和59年12月
送水ポンプ	多段渦巻ポンプ φ40mm×0.087m <sup>3</sup> /min×61m×3.7kW	2 台	
電気設備	受電電圧 220 V		
監視設備	信号ケーブルにて ・笠取第1ポンプ場送信		

配水池及び  
加圧ポンプ場施設

施設名：折居台配水池及び折居台加圧ポンプ場

所在地：宇治市折居台4丁目1-197

水系：府営水(琵琶ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	PC造、有効容量計6,002 m <sup>3</sup> φ27.65 m×深 5 m	2 池	竣工 昭和57年 3月
配水ポンプ 設備	加圧タンク方式 タンク内容量 4 m <sup>3</sup> 使用圧力 0.25～0.32 Mpa	1 基	増設 平成11年 2月 (第2配水池)
	多段渦巻ポンプ φ80mm×0.64 m <sup>3</sup> /min×30 m×7.5 kW	3 台	
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 800L/基	1 基	(滅菌設備) (緊急遮断弁)
	次亜塩素酸ソーダ注入機 30 mL/min×0.98 MPa×15 W	2 台	
緊急遮断弁	φ 500 mm (第2配水池に設置)	1 台	改良 平成20年 3月
電気設備	受電電圧 220 V 及び110 V		(配水ポンプ設備) (非常用発電機)
	非常用発電機(ディーゼル) 41.2kW,3φ200V,60Hz	1 台	
監視設備	テレメーター子局 ・琵琶ポンプ場送信	1 局	

配水池及び  
加圧ポンプ場施設

施設名：広野町配水池及び広野町加圧ポンプ場  
所在地：宇治市広野町八軒屋谷27  
水系：府営水(折居台配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量計4,212 m <sup>3</sup> 巾 27.0 m×長 19.5 m×深 4.0 m	2 池	竣工 平成 5年 7月 改良 平成 19年 (φ100mm バイパス配管)
配水ポンプ 設備	加圧タンク方式 タンク内容量 18 m <sup>3</sup> 使用圧力 0.48~0.61 Mpa	1 基	
	多段渦巻ポンプ φ80mm×0.7 m <sup>3</sup> /min×65 m×15 kW φ80mm×0.7 m <sup>3</sup> /min×65 m×15 kW (エンジン付)	2 台 1 台	
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 800 L/基	1 基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 68 mL/min×0.7 MPa×25 W 60 mL/min×1.5 MPa×30 W	1 台 1 台	
電動弁	電動仕切弁 φ450mm×0.2 kW	1 台	
電気設備	受電電圧 220 V 及び 110 V		
監視設備	テレメーター子局 ・琵琶ポンプ場送信	1 局	

配水池及び  
加圧ポンプ場施設

施設名：羽戸山配水池及び羽戸山加圧ポンプ場  
所在地：宇治市羽戸山4丁目1-15  
水系：府営水(森本ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	PC造、有効容量 1,004 m <sup>3</sup> φ16 m×深 5.0 m	1 池	竣工 昭和60年 2月
配水ポンプ 設備	加圧タンク方式 タンク内容量 12 m <sup>3</sup> 使用圧力 0.25~0.33 Mpa	1 基	
	単段渦巻ポンプ φ65mm×1.4 m <sup>3</sup> /min×15 m×7.5 kW φ65mm×1.4 m <sup>3</sup> /min×15 m×7.5 kW (エンジン付)	2 台 1 台	
電動弁	電動仕切弁 φ300mm×1.5 kW	1 台	
電気設備	受電電圧 220 V 及び 110 V		
監視設備	テレメーター子局 ・森本ポンプ場送信	1 局	

配水池及び  
加圧ポンプ場施設

施設名：平尾台配水池及び平尾台加圧ポンプ場  
所在地：宇治市平尾台4丁目17  
水系：自己水及び府営水(平尾台ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	PC造、有効容量計1,207m <sup>3</sup> φ12.4m×深 5.0m	2 池	竣工 昭和63年8月 増設 平成18年3月 (緊急遮断弁)
配水ポンプ 設備	加圧タンク方式 タンク内容量 12m <sup>3</sup> 使用圧力 0.25~0.40MPa	1 基	
	多段渦巻ポンプ φ80mm×0.7m <sup>3</sup> /min×48m×11kW φ80mm×0.7m <sup>3</sup> /min×48m×11kW (エンジン付)	2 台 1 台	
緊急遮断弁	φ300mm (第2配水池に設置)	1 台	
電気設備	受電電圧 220V及び110V		
監視設備	テレメーター子局 ・平尾台ポンプ場送信	1 局	

加圧ポンプ場  
施設

施設名：白川加圧ポンプ場  
所在地：宇治市鍋倉山42-6他  
水系：府営水(折居台配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水ポンプ 設備	加圧タンク方式 タンク内容量 15m <sup>3</sup> 使用圧力 0.76~0.90 MPa	1 基	竣工 平成8年9月
	多段渦巻ポンプ φ100mm×0.85m <sup>3</sup> /min×83m×22kW φ100mm×0.85m <sup>3</sup> /min×83m×22kW (エンジン付)	2 台 1 台	
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 容量 200L/基	2 基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 68mL/min×0.7MPa×25w	2 台	
電気設備	受電電圧 220V及び110V		
監視設備	テレメーター子局 ・宇治浄水場送信	1 局	

加圧ポンプ場  
施設

施設名：金井戸加圧ポンプ場  
所在地：宇治市宇冶金井戸7-2  
水系：府営水(金井戸ポンプ場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	ステンレスパネルタンク、有効容量計56m <sup>3</sup> 巾2.5m×長7m×深1.6m	2池	(受水槽・配水ポンプ) 竣工 昭和59年5月 増設 平成4年3月 増設 平成11年11月 (受水槽)
	ステンレスパネルタンク、有効容量22.4m <sup>3</sup> 巾2.0m×長7m×深1.6m	1池	
配水ポンプ 設備	加圧タンク方式 タンク内容量3m <sup>3</sup> 使用圧力0.38~0.50MPa	1基	
	単段渦巻ポンプ φ50mm×0.38m <sup>3</sup> /min×35m×5.5kW	2台	
電気設備	受電電圧 220V及び110V		
監視設備	テレメーター子局 ・金井戸ポンプ場送信	1局	

加圧ポンプ場  
施設

施設名：土井谷加圧ポンプ場  
所在地：宇治市炭山土井谷8-10  
水系：自己水及び府営水(炭山高区配水池より流入)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
受水槽	FRP製タンク(有効容量8m <sup>3</sup> ) 巾1.5m×長3.5m×深1.5m	1池	移管 平成20年3月
配水ポンプ 設備	加圧タンク方式 タンク内容量10L 使用圧力0.60MPa	1基	
	多段渦巻ポンプ φ40mm×0.5m <sup>3</sup> /min×62m×3.7kW	2台	
電気設備	受電電圧 220V		

配水池施設

施設名：池尾配水池  
所在地：宇治市池尾西組74  
水系：自己水(池尾浄水場より送水)

施設	構造・形式・能力	数量	摘要
配水池	RC造、有効容量計39.0m <sup>3</sup> 巾2.6m×長3.0m×深2.5m	2池	竣工 平成12年6月
滅菌設備	次亜塩素酸ソーダ貯留槽 50L/基	1基	
	次亜塩素酸ソーダ注入機 2~9mL/min×0.7MPa×25W	1台	
電気設備	受電電圧 110V		
監視設備	テレメーター子局 ・池尾浄水場送信	1局	

### 3) 管路の概要

管路は、導水管、送水管および配水管から構成されています。管路延長は以下に示すとおりです。

管路種別ごとの延長(m)

導水管	779	基幹管路	68,877
送水管	21,779		
配水管	配水本管	46,319	
	配水支管	628,059	
計	696,936		

導水管の管種・口径別延長(m)

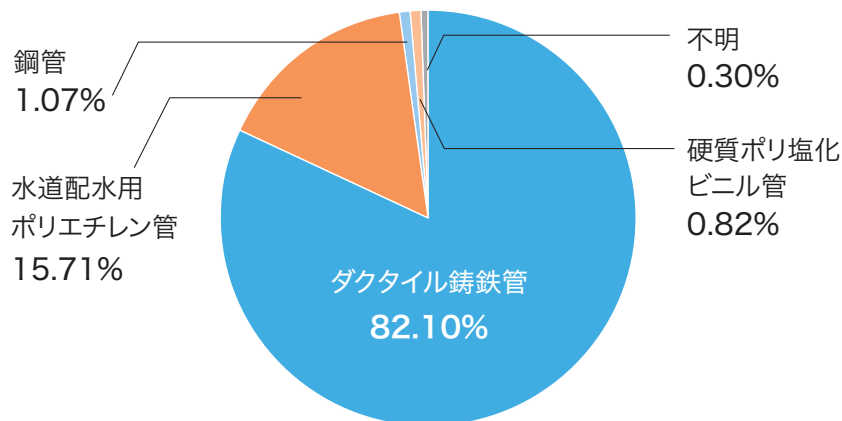
口径(mm) \ 管種	ダクトイル鋳鉄管	計
500	192	192
200	413	413
150	174	174
計	779	779



導水管の管種別割合

送水管の管種・口径別延長(m)

管種 \ 口径(mm)	ダクトイル鋳鉄管	水道配水用ポリエチレン管	鋼管	硬質ポリ塩化ビニル管	不明	計
700	538					538
600	109					109
500	2,686		121			2,807
350	1,702		16			1,718
300	172					172
250	1,845				65	1,910
200	2,102		10			2,112
150	2,637		11	31		2,679
100	1,091	1,287	5	4		2,387
75	4,148	2,133	70	126		6,477
50	851	2		17		870
計	17,881	3,422	233	178	65	21,779

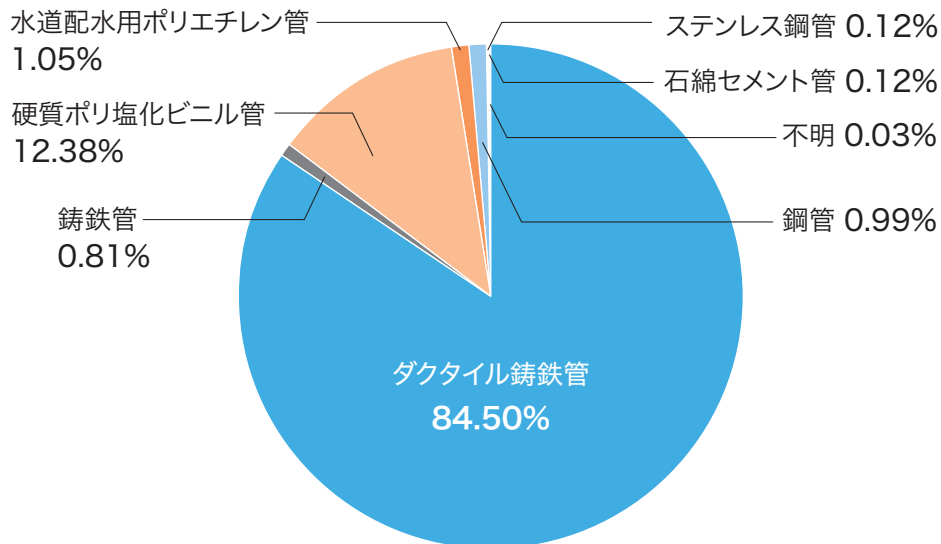


送水管の管種別割合



配水管の管種・口径別延長(m)

管種 口径(mm)	ダク タイル 鋳鉄管	硬質 ポリ塩化 ビニル管	水道 配水用 ポリエ チレン管	鋼管	鋳鉄管	ステン レス 鋼管	石綿 セメント 管	不明	計	
	配水本管	800	826							826
700		2,213			256				2,469	
600		6,548			169				6,717	
500		3,933			74				4,007	
450		3,149			79				3,228	
400		9,288			227				9,515	
350		9,937			45	463			10,445	
300		9,072			40				9,112	
配水支管		250	21,712			80	42	317	20	22,171
	200	52,324			62	1,352	442	200	54,380	
	150	97,321	3,775	197	136	420	3	94	101,946	
	125					318		87	405	
	100	162,165	4,733	1,033	260	2,307		20	170,518	
	75	191,406	5,748	553	1,817	537		369	200,430	
	65		110						110	
	50		50,945	4,982	2,756				58,683	
	40以下		18,191	336	649		42		33	19,251
	不明								165	165
計	569,894	83,502	7,101	6,650	5,439	804	790	198	674,378	



配水管の管種別割合

# 水道事業ガイドラインに基づく業務指標(PI)

## ■ 評価結果一覧

No.	PI	単位	改善方向	宇治市のPI値						類似団体 平均値
				H24	H25	H26	H27	H28	H29	H29
<b>安全(11項目)</b>										
A101	平均残留塩素濃度	mg/L	-	0.48	0.52	0.52	0.47	0.51	0.51	0.52
A102	最大カビ臭物質濃度水質基準比率	%	-	50.0	80.0	60.0	70.0	70.0	40.0	21.3
A103	総トリハロメタン濃度水質基準比率	%	-	7.5	16.2	10.2	9.7	11.9	12.0	23.8
A104	有機物(TOC)濃度水質基準比率	%	-	22.8	20.6	22.2	17.6	15.7	17.1	27.6
A105	重金属濃度水質基準比率	%	-	1.7	0.0	0.0	0.0	1.4	7.1	1.9
A106	無機物質濃度水質基準比率	%	-	18.7	14.9	14.6	16.3	20.5	16.2	21.4
A107	有機化学物質濃度水質基準比率	%	-	11.7	10.0	8.3	5.7	4.3	1.4	0.3
A108	消毒副生成物濃度水質基準比率	%	-	3.3	6.7	6.7	0.0	4.3	4.3	25.1
A204	直結給水率	%	+	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	1.1	3.5
A301	水源の水質事故件数	件	-	0	0	0	0	0	0	0
A401	鉛製給水管率	%	-	-	-	-	-	-	-	6.5
<b>安定(44項目)</b>										
B101	自己保有水源率	%	+	33.2	33.2	33.2	33.2	30.2	30.2	25.5
B103	地下水率	%	(±)	80.9	82.2	80.3	79.9	79.5	78.9	72.6
B104	施設利用率	%	+	65.8	65.2	63.9	62.8	62.8	62.2	67.2
B105	最大稼働率	%	(±)	73.2	72.6	69.7	68.3	68.1	67.6	74.3
B106	負荷率	%	(±)	89.8	89.8	91.6	92.0	92.2	92.0	90.4
B107	配水管延長密度	km/km <sup>2</sup>	+	23.3	23.3	23.3	22.7	22.7	22.8	14.4
B110	漏水率	%	-	8.4	8.0	7.6	7.0	7.7	8.0	3.0
B111	有効率	%	+	91.6	92.0	92.4	92.9	92.2	91.8	95.6
B112	有収率	%	+	91.0	91.2	91.4	92.1	91.2	91.0	93.5
B113	配水池貯留能力	日	+	0.88	0.89	0.90	0.93	0.91	0.92	0.89
B114	給水人口一人当たり配水量	L/日・人	+	322	321	316	315	317	315	308
B115	給水制限日数	日	-	0	0	0	0	0	0	0
B116	給水普及率	%	+	99.7	99.5	99.9	99.7	99.7	99.6	99.6
B202	事故時断水人口率	%	-	18.2	18.4	18.3	18.5	18.4	18.4	40.4
B203	給水人口一人当たり貯留飲料水量	L/人	+	141	142	142	146	144	145	139
B204	管路の事故割合	件/100km	-	2.4	1.0	0.4	1.2	4.5	2.0	4.6
B205	基幹管路の事故割合	件/100km	-	0.0	1.7	0.0	0.0	7.2	0.0	6.2
B208	給水管の事故割合	件/1000件	-	7.4	6.5	5.0	4.6	4.0	3.6	4.6
B209	給水人口一人当たり平均断水・濁水時間	時間	-	1.07	0.07	0.02	0.06	0.22	0.04	0.01
B210	災害対策訓練実施回数	回/年	+	0	0	0	0	0	0	3
B211	消火栓設置密度	基/km	+	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0
B301	配水量1m <sup>3</sup> 当たり電力消費量	kWh/m <sup>3</sup>	-	0.41	0.42	0.42	0.42	0.43	0.42	0.28
B302	配水量1m <sup>3</sup> 当たり消費エネルギー	MJ/m <sup>3</sup>	-	4.13	4.26	4.19	4.23	4.32	4.19	2.77
B303	配水量1m <sup>3</sup> 当たり二酸化炭素排出量	g-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	-	197	221	220	211	214	176	131
B304	再生可能エネルギー利用率	%	+	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.660
B305	浄水発生土の有効利用率	%	+	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
B306	建設副産物リサイクル率	%	+	93.7	99.9	100.0	100.0	100.0	99.9	76.6
B401	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率	%	+	85.1	85.6	85.9	84.6	85.0	85.4	63.6
B402	管路の新設率	%	+	0.12	0.15	0.30	0.18	0.26	0.14	0.40
B501	法定耐用年数超過浄水施設率	%	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
B502	法定耐用年数超過設備率	%	-	65.5	65.5	68.1	63.1	65.1	66.1	52.6
B503	法定耐用年数超過管路率	%	-	16.1	17.8	19.6	19.7	20.1	21.2	18.4
B504	管路の更新率	%	+	0.87	0.78	0.95	1.01	0.84	0.95	0.67

No.	PI	単位	改善方向	宇治市のPI値						類似団体 平均値
				H24	H25	H26	H27	H28	H29	
B602	浄水施設の耐震化率	%	+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.2
B603	ポンプ所の耐震化率	%	+	33.4	33.4	33.4	33.4	33.4	33.4	59.4
B604	配水池の耐震化率	%	+	7.5	7.5	8.9	8.8	22.3	22.3	58.5
B605	管路の耐震化率	%	+	2.2	3.0	4.0	5.7	6.6	7.6	17.3
B606	基幹管路の耐震化率	%	+	4.4	4.4	4.5	10.9	11.1	11.1	30.6
B606-2	基幹管路の耐震適合率	%	+	19.3	19.3	19.4	23.7	24.0	24.0	41.1
B609	薬品備蓄日数	日	+	22.2	20.0	23.5	28.6	28.6	25.0	29.9
B610	燃料備蓄日数	日	+	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	17.4
B611	応急給水施設密度	箇所/100km <sup>2</sup>	+	46.2	46.2	46.2	47.3	47.3	47.3	39.5
B612	給水車保有度	台/1,000人	+	0.021	0.021	0.021	0.022	0.022	0.022	0.010
B613	車載用の給水タンク保有度	m <sup>3</sup> /1,000人	+	0.112	0.112	0.113	0.114	0.115	0.116	0.064
<b>持続(27項目)</b>										
C101	営業収支比率	%	+	101.1	100.5	95.5	92.9	99.1	98.7	103.6
C102	経常収支比率	%	+	99.9	100.4	105.2	104.0	110.6	108.8	113.4
C103	総収支比率	%	+	99.5	100.1	79.6	103.9	110.4	108.6	113.7
C104	累積欠損金比率	%	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
C105	繰入金比率(収益的収入分)	%	-	0.0	0.1	0.1	0.7	0.6	0.6	0.1
C106	繰入金比率(資本的収入分)	%	-	3.9	8.2	12.3	16.8	17.1	18.8	11.0
C107	職員一人当たり給水収益	千円/人	+	50,072	48,952	45,339	47,515	55,869	56,478	102,656
C108	給水収益に対する職員給与費の割合	%	-	16.6	16.0	15.8	16.8	15.4	14.8	9.9
C109	給水収益に対する企業債利息の割合	%	-	5.7	5.3	5.0	4.9	3.9	3.5	3.3
C110	給水収益に対する減価償却費の割合	%	-	22.5	22.4	23.0	25.8	22.8	22.7	30.1
C111	給水収益に対する建設改良のための企業債償還金の割合	%	-	13.9	13.8	13.5	15.5	14.6	15.1	11.4
C112	給水収益に対する企業債残高の割合	%	-	177.1	171.5	169.6	207.8	186.9	193.5	404.6
C113	料金回収率	%	+	89.8	89.1	95.8	93.5	99.9	99.9	105.3
C114	供給単価	円/m <sup>3</sup>	+	134.4	134.8	134.0	134.0	153.7	157.4	157.7
C115	給水原価	円/m <sup>3</sup>	-	149.6	151.2	140.0	143.3	153.8	157.5	150.5
C116	1か月10m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金	円	-	1,092	1,092	1,123	1,123	1,334	1,334	1,175
C117	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金	円	-	2,368	2,368	2,346	2,346	2,879	2,879	2,508
C118	流動比率	%	+	320.3	332.2	235.2	240.8	210.4	195.1	440.6
C119	自己資本構成比率	%	+	70.9	71.5	69.5	68.2	67.5	66.9	77.4
C120	固定比率	%	-	120.8	118.7	122.5	127.9	127.3	127.9	112.8
C121	企業債償還金対減価償却費比率	%	-	61.6	61.3	106.1	107.1	113.8	117.4	54.8
C122	固定資産回転率	回	+	0.17	0.17	0.17	0.16	0.17	0.17	0.14
C123	固定資産使用効率	m <sup>3</sup> /10,000円	+	13.2	13.2	13.5	11.9	11.5	10.9	9.3
C124	職員一人当たり有収水量	m <sup>3</sup> /人	+	373,000	363,000	338,000	355,000	364,000	359,000	663,375
C204	技術職員率	%	+	55.1	53.2	53.2	53.8	52.4	50.0	44.4
C205	水道業務平均経験年数	年/人	+	5.0	5.0	15.0	5.0	5.0	5.0	9.5
C302	浄水場第三者委託率	%	(±)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

改善方向の凡例

＋：増加する方向が望ましいもの   －：減少する方向が望ましいもの  
(±)：一概に言えないもの

## ■ 業務指標(PI)の解説

No.	PI	単位	計算式	業務指標の説明
A101	平均残留塩素濃度	mg/L	残留塩素濃度合計/残留塩素測定回数	給水栓での残留塩素濃度の平均値を表す。残留塩素濃度0.1mg/L以上を確保した上で、なるべく小さな値にすることが望ましい。
A102	最大カビ臭物質濃度水質基準比率	%	(最大カビ臭物質濃度/水質基準値)×100	給水栓におけるカビ臭物質濃度の最大値の水質基準値に対する割合を表す。
A103	総トリハロメタン濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の総トリハロメタン濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	給水栓における総トリハロメタン濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を表す。
A104	有機物(TOC)濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の有機物(TOC)濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	給水栓における有機物(TOC)濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を表す。
A105	重金属濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の当該重金属濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	給水栓における重金属濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を表す。
A106	無機物質濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の当該無機物質濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	給水栓における無機物質濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の味、色など性状を表す。
A107	有機化学物質濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の当該有機化学物質濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	給水栓における有機化学物質濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、原水の汚染状況及び水道水の安全性を表す。
A108	消毒副生成物濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の当該消毒副生成物濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	給水栓における消毒副生成物濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、原水の汚染状況及び水道水の安全性を表す。
A204	直結給水率	%	(直結給水件数/給水件数)×100	給水件数に対する直結給水件数の割合を示すもので、受水槽管理の不備に伴う衛生問題などに対する水道事業者としての取組み度合いを表す。
A301	水源の水質事故件数	件	年間水源水質事故件数	1年間における水源の水質事故件数を示すもので、水源の突発的水質異常のリスクがどれだけあるかを表す。
A401	鉛製給水管率	%	(鉛製給水管使用件数/給水件数)×100	給水件数に対する鉛製給水管使用件数の割合を示すものであり、鉛製給水管の解消に向けた取組みの進捗度合いを表す。
B101	自己保有水源率	%	(自己保有水源水量/全水源水量)×100	水道事業者が保有する全ての水源量に対する、その水道事業者が単独で管理し、水道事業者の意思で自由に取水できる水源量の割合を示すもので、水源運用の自由度を表す。
B103	地下水率	%	(地下水揚水量/年間取水量)×100	水源利用水量に対する地下水揚水量の割合を示すもので、水道事業者の水源特性を表す。
B104	施設利用率	%	(一日平均配水量/施設能力)×100	施設能力に対する一日平均配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す。
B105	最大稼働率	%	(一日最大配水量/施設能力)×100	施設能力に対する一日最大配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す。
B106	負荷率	%	(一日平均配水量/一日最大配水量)×100	一日最大配水量に対する一日平均配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す。
B107	配水管延長密度	km/km <sup>2</sup>	配水管延長/現在給水面積	給水面積当たりの配水管延長を示すもので、お客さまからの給水申込みに対する物理的利便性の度合いを表す。
B110	漏水率	%	(年間漏水量/年間配水量)×100	配水量に対する漏水量の割合を示しており、事業効率を表す。

No.	PI	単位	計算式	業務指標の説明
B111	有効率	%	$(\text{年間有効水量} / \text{年間配水量}) \times 100$	年間配水量に対する年間有効水量の割合を示すもので、水道事業の経営効率性を表す。
B112	有収率	%	$(\text{年間有収水量} / \text{年間配水量}) \times 100$	年間配水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量が、どの程度収益につながっているかを表す。
B113	配水池貯留能力	日	配水池有効容量 / 一日平均配水量	一日平均配水量に対する配水池有効容量の割合を示すもので、給水に対する安定性を表す。
B114	給水人口一人当たり配水量	L/日・人	$(\text{一日平均配水量} \times 1,000) / \text{現在給水人口}$	給水人口一人当たりの配水量を示すもので、家庭用以外の水利用の多少を表す。
B115	給水制限日数	日	年間給水制限日数	1年間に給水制限を実施した日数を示すもので、給水サービスの安定性を表す。
B116	給水普及率	%	$(\text{現在給水人口} / \text{給水区域内人口}) \times 100$	給水区域内に居住する人口に対する給水人口の割合を示すもので、水道事業のサービス享受の概況及び地域性を表す。
B202	事故時断水人口率	%	$(\text{事故時断水人口} / \text{現在給水人口}) \times 100$	浄水場などの事故時において、給水できない人口の割合を示しており、水道事業体のシステムの融通性、余裕度によるサービスの安定性を表す。
B203	給水人口一人当たり貯留飲料水量	L/人	$(\text{配水池有効容量} \times 1/2 + \text{緊急貯水槽容量}) \times 1,000 / \text{現在給水人口}$	災害時に確保されている給水人口一人当たりの飲料水量を示す指標であり、水道事業体の災害対応度を表す。
B204	管路の事故割合	件/100km	管路の事故件数 / (管路延長 / 100)	1年間における導・送・配水管路の事故件数を延長100km当たりの件数に換算したものであり、管路の健全性を表す。
B205	基幹管路の事故割合	件/100km	基幹管路の事故件数 / (基幹管路延長 / 100)	1年間における基幹管路の事故件数を、延長100km当たりの件数に換算したものであり、基幹道路の健全性を表す。
B208	給水管の事故割合	件/1,000件	給水管の事故件数 / (給水管数 / 1,000)	給水管数1,000件当たりの給水管の事故件数を示しており、配水管分岐から水道メーターまでの給水管の健全性を表す。
B209	給水人口一人当たり平均断水・濁水時間	時間	$\Sigma(\text{断水・濁水時間} \times \text{断水・濁水区域給水人口}) / \text{現在給水人口}$	現在給水人口に対する断水・濁水時間を示すものであり、給水の安定度を表す。
B210	災害対策訓練実施回数	回/年	年間の災害対策訓練実施回数	1年間に災害対策訓練を実施した回数を示すもので、自然災害に対する危機対応性を表す。
B211	消火栓設置密度	基/km	消火栓数 / 配水管延長	配水管延長に対する消火栓の設置密度を示すもので、危機対応能力の度合いを表す。
B301	配水量1m <sup>3</sup> 当たり電力消費量	kWh/m <sup>3</sup>	電気使用量の合計 / 年間配水量	配水量1m <sup>3</sup> 当たりの電力使用量を示すもので、省エネルギー対策への取組み度合いを表す。
B302	配水量1m <sup>3</sup> 当たり消費エネルギー	MJ/m <sup>3</sup>	エネルギー消費量 / 年間配水量	配水量1m <sup>3</sup> 当たりのエネルギー消費量の割合を示すもので、省エネルギー対策への取組み度合いを表す。
B303	配水量1m <sup>3</sup> 当たり二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量	g・CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	$(\text{二酸化炭素(CO}_2\text{)排出量} / \text{年間配水量}) \times 1,000,000$	年間配水量に対する総二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量であり、環境保全への取組み度合いを表す。
B304	再生可能エネルギー利用率	%	$(\text{再生可能エネルギー設備の電力使用量} / \text{全施設の電力使用量}) \times 100$	全施設の電力使用量に対する再生可能エネルギーの利用の割合を示すもので、環境負荷低減に対する取組み度合いを表す。

No.	PI	単位	計算式	業務指標の説明
B305	浄水発生土の有効利用率	%	$(\text{有効利用土量} / \text{浄水発生土量}) \times 100$	浄水発生土量に対する有効利用土量の割合を示すもので、環境保全への取組み度合いを表す。
B306	建設副産物リサイクル率	%	$(\text{リサイクルされた建設副産物量} / \text{建設副産物発生量}) \times 100$	水道事業における工事などで発生する建設副産物のうち、リサイクルされた建設副産物の割合を示すもので、環境保全への取組み度合いを表す。
B401	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率	%	$[(\text{ダクタイル鋳鉄管延長} + \text{鋼管延長}) / \text{管路延長}] \times 100$	全管路延長に対するダクタイル鋳鉄管・鋼管の割合を示すもので、管路の母材強度に視点を当てた指標。
B402	管路の新設率	%	$(\text{新設管路延長} / \text{管路延長}) \times 100$	管路延長に対する1年間に新設した管路延長の割合を示すもので、管路整備度合いを表す。
B501	法定耐用年数超過浄水施設率	%	$(\text{法定耐用年数を超過している浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	全浄水施設能力に対する法的耐用年数を超過した浄水施設の浄水能力の割合を示すもので、施設の老朽化度及び更新の取組み状況を表す。
B502	法定耐用年数超過設備率	%	$(\text{法定耐用年数を超過している機械・電気・計装設備などの合計数} / \text{機械・電気・計装設備などの合計数}) \times 100$	水道施設に設置されている機械・電気・計装設備の機器合計数に対する法定耐用年数を超過している機器数の割合を示すものであり、機器の老朽化度、更新の取組み状況を表す。
B503	法定耐用年数超過管路率	%	$(\text{法定耐用年数を超過している管路延長} / \text{管路延長}) \times 100$	管路の延長に対する法定耐用年数を超過している管路の割合を示すものであり、管路の老朽化度、更新の取組み状況を表す。
B504	管路の更新率	%	$(\text{更新された管路延長} / \text{管路延長}) \times 100$	管路の延長に対する更新された管路延長の割合を示すもので、信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表す。
B602	浄水施設の耐震化率	%	$(\text{耐震対策の施された浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する浄水処理機能の信頼性・安全性を表す。
B602-2	浄水施設の主要構造物耐震化率	%	$[(\text{沈でん・ろ過を有する施設の耐震化浄水施設能力} + \text{ろ過のみ施設の耐震化浄水施設能力}) / \text{全浄水施設能力}] \times 100$	浄水施設のうち、主要構造物である、沈でん池及びろ過池に対する耐震対策が施されている割合を示すもので、B602(浄水施設の耐震化)の進捗を表す。
B603	ポンプ所の耐震化率	%	$(\text{耐震対策の施されたポンプ所能力} / \text{耐震化対象ポンプ所能力}) \times 100$	耐震化対象ポンプ所能力に対する耐震対策が施されたポンプ所能力の割合を示すもので、地震災害に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表す。
B604	配水池の耐震化率	%	$(\text{耐震対策の施された配水池有効容量} / \text{配水池有効容量}) \times 100$	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表す。
B605	管路の耐震化率	%	$(\text{耐震管延長} / \text{管路延長}) \times 100$	導・送・配水管(配水支管を含む)全ての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表す。
B606	基幹管路の耐震化率	%	$(\text{基幹管路のうち耐震管延長} / \text{基幹管路延長}) \times 100$	基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すものであり、地震災害に対する基幹管路の安全性、信頼性を表す。
B606-2	基幹管路の耐震適合率	%	$(\text{基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長} / \text{基幹管路延長}) \times 100$	基幹管路の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、B606(基幹管路の耐震管率)を補足する指標。

No.	PI	単位	計算式	業務指標の説明
B609	薬品備蓄日数	日	平均凝集剤貯蔵量／ 凝集剤一日平均使用量 又は 平均塩素剤貯蔵量／塩素剤一日平均 使用量 のうち、小さい方の値	浄水場で使う薬品の平均貯蔵量に対する一日平均使用量の割合を示すもので、災害に対する危機対応力を表す。
B610	燃料備蓄日数	日	平均燃料貯蔵量／一日燃料使用量	停電時においても、自家発電設備で浄水場の稼働を継続できる日数を示すもので、災害時の対応性を表す。
B611	応急給水施設密度	箇所/ 100km <sup>2</sup>	応急給水施設数／(現在給水面積／100)	100km <sup>2</sup> 当たりの応急給水施設数を示すもので、震災時などにおける飲料水の確保のしやすさを表す。
B612	給水車保有度	台/ 1,000人	給水車数／(現在給水人口／1,000)	給水人口1,000人当たりの給水車保有台数を示すものであり、事故・災害などの緊急時における応急給水活動の対応性を表す。
B613	車載用の給水タンク保有度	m <sup>3</sup> / 1,000人	車載用給水タンクの容量／ (現在給水人口／1,000)	給水人口1,000人当たりの車載用給水タンク容量を示すものであり、主に大地震などが発生した場合における応急給水活動の対応性を表す。
C101	営業収支比率	%	[(営業収益－受託工事収益)／ (営業費用－受託工事費)]×100	営業収益の営業費用に対する割合を示すもので、水道事業の収益性を表す。
C102	経常収支比率	%	[(営業収益＋営業外収益)／ (営業費用＋営業外費用)]×100	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すもので、水道事業の収益性を表す。
C103	総収支比率	%	(総収益／総費用)×100	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すもので、水道事業の収益性を表す。
C104	累積欠損金比率	%	[累積欠損金／ (営業収益－受託工事収益)]×100	受託工事収益を除く営業収益に対する累積欠損金の割合を示すもので、水道事業経営の健全性を表す。
C105	繰入金比率(収益的収入分)	%	(損益勘定繰入金／収益的収入)×100	収益的収入に対する損益勘定繰入金の依存度を示しており、事業の経営状況を表す。
C106	繰入金比率(資本的収入分)	%	(資本勘定繰入金／資本的収入計)×100	資本的収入に対する資本勘定繰入金の依存度を示しており、事業の経営状況を表す。
C107	職員一人当たり給水収益	千円/人	給水収益／損益勘定所属職員数	損益勘定職員一人当たりの給水収益を示すもので、水道事業における生産性について給水収益を基準として把握するための指標。
C108	給水収益に対する職員給与費の割合	%	(職員給与費／給水収益)×100	給水収益に対する職員給与費の割合を示すもので、水道事業の収益性を表す。
C109	給水収益に対する企業債利息の割合	%	(企業債利息／給水収益)×100	給水収益に対する企業債利息の割合を示すもので、水道事業の効率性及び財務安全性を表す。
C110	給水収益に対する減価償却費の割合	%	(減価償却費／給水収益)×100	給水収益に対する減価償却費の割合を示すもので、水道事業の収益性を表す。
C111	給水収益に対する建設改良のための企業債償還金の割合	%	(建設改良のための企業債償還金／ 給水収益)×100	給水収益に対する建設改良のための企業債償還金の割合を示すもので、建設改良のための企業債償還金が経営に及ぼす影響を表す。
C112	給水収益に対する企業債残高の割合	%	(企業債残高／給水収益)×100	給水収益に対する企業債残高の割合を示すもので、企業債残高が規模及び経営に及ぼす影響を表す。
C113	料金回収率	%	(供給単価／給水原価)×100	給水原価に対する供給単価の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す。

No.	PI	単位	計算式	業務指標の説明
C114	供給単価	円/m <sup>3</sup>	給水収益/年間総有収水量	有収水量1m <sup>3</sup> 当たりの給水収益の割合を示すもので、水道事業でどれだけの収益を得ているかを表す。
C115	給水原価	円/m <sup>3</sup>	[経常費用－(受託工事費+材料及び不用品売却原価+附帯事業費+長期前受金戻入)]/年間有収水量	有収水量1m <sup>3</sup> 当たりの経常費用(受託工事費等を除く)の割合を示すもので、水道事業でどれだけの費用がかかっているかを表す。
C116	1か月10m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金	円	1か月10m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金	1か月に10m <sup>3</sup> 使用した場合における水道料金を示し、契約者の経済的利便性を表す。
C117	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金	円	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金	1か月に20m <sup>3</sup> 使用した場合における水道料金を示し、契約者の経済的利便性を表す。
C118	流動比率	%	(流動資産/流動負債)×100	流動負債に対する流動資産の割合を示すものであり、事業の財務的安全性を表す。
C119	自己資本構成比率	%	[(資本金+剰余金+評価差額など+繰延収益)/負債・資本合計]×100	総資本(負債及び資本)に対する自己資本の割合を示しており、財務の健全性を表す。
C120	固定比率	%	[固定資産/(資本金+剰余金+評価差額など+繰延収益)]×100	自己資本に対する固定資産の割合を示すものであり、財務の安定性を表す。
C121	企業債償還金対減価償却費比率	%	(建設改良のための企業債償還金/当年度減価償却費－長期前受金戻入)×100	当年度減価償却費に対する企業債償還金の割合を示すもので、投下資本の回収と再投資との間のバランスを見る指標。
C122	固定資産回転率	回	(営業収益－受託工事収益)/[(期首固定資産+期末固定資産)/2]	固定資産(年度平均)に対する営業収益の割合を示すものであり、1年間に固定資産額の何倍の営業収益があったかを示す指標。
C123	固定資産使用効率	m <sup>3</sup> /万円	年間配水量/有形固定資産	有形固定資産に対する年間総配水量の割合を示すもので、施設の使用効率を表す。
C124	職員一人当たり有収水量	m <sup>3</sup> /人	年間総有収水量/損益勘定所属職員数	1年間における損益勘定職員一人当たりの有収水量を示すもので、水道サービスの効率性を表す。
C204	技術職員率	%	(技術職員数/全職員数)×100	全職員数に対する技術職員の割合を示すもので、技術面での維持管理体制を表す。
C205	水道業務平均経験年数	年/人	職員の水道業務経験年数/全職員数	全職員の水道業務平均経験年数を表すもので、人的資源としての専門技術の蓄積度合いを表す。
C302	浄水場第三者委託率	%	(第三者委託した浄水場の浄水施設能力/全浄水施設能力)×100	全浄水場の浄水施設能力のうち、第三者委託している浄水場の浄水施設能力の割合を示すもので、第三者委託の導入状況を表す。



## 経営指標

### ■ 経営指標の解説

指標	算出式
経常収支比率 (%)	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
<p>経常収支比率は、当該年度において、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標で、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要です。数値が100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しているため、経営改善に向けた取り組みが必要です。</p>	

指標	算出式
流動比率 (%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
<p>短期的な債務に対する支払能力を表す指標で、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す100%以上であることが必要です。</p>	

指標	算出式
企業債残高対給水収益比率 (%)	$\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$
<p>給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標で、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているか、対外的に説明できることが求められます。</p>	

指標	算出式
料金回収率 (%)	$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$
<p>給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標で、料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味します。数値が低く、繰出基準に定める事由以外の繰出金によって収入不足を補填しているような事業体にあつては、適切な料金収入の確保が求められます。</p>	

指標	算出式
給水原価 (円)	$\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料および不用品売却原価} + \text{附帯事業費}) - \text{長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}}$
<p>有収水量1m<sup>3</sup>当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標で、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているか、対外的に説明できることが求められます。</p>	

指標	算出式
施設利用率 (%)	$\frac{\text{1日平均配水量}}{\text{1日配水能力}} \times 100$
<p>1日配水能力に対する1日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標で、一般的には高い数値であることが望まれます。数値が低い場合には、施設が遊休状態ではないかといった分析が必要です。</p>	

指標	算出式
有収率 (%)	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$
<p>施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標で、100%に近ければ近いほど施設の稼働状況が収益に反映されているといえます。数値が低い場合は、水道施設や給水装置を通して給水される水量が収益に結びついていないため、漏水やメーター不感等といった原因を特定し、その対策を講じる必要があります。</p>	

指標	算出式
有形固定資産減価償却率 (%)	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$
<p>有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合いを示しています。</p> <p>一般的に、数値が高いほど、法定耐用年数に近い資産が多いことを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができます。</p>	

指標	算出式
管路経年化率 (%)	$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$
<p>法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度合いを示しています。</p> <p>一般的に、数値が高い場合は、法定耐用年数を経過した管路を多く保有しており、管路の更新等の必要性を推測することができます。</p>	

指標	算出式
管路更新率 (%)	$\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$
<p>当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できます。</p> <p>数値が低い場合、耐震性や、今後の更新投資の見直しを含め、対外的に説明できることが求められます。</p>	

「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」策定までの経過

第1回 宇治市水道事業経営審議会(令和元年11月27日)

議事

- (1) 諮問
- (2) 「宇治市水道事業ビジョン」策定について(諮問の背景)
- (3) 今後のスケジュールについて
- (4) その他

第2回 宇治市水道事業経営審議会(令和2年2月4日)

議事

- (1) 宇治市水道事業の現状と課題について
  - ① 実地調査(宇治浄水場)
  - ② 宇治市水道事業の現状と課題
  - ③ 現水道ビジョンの中間見直し
- (2) 現水道ビジョンの評価について
- (3) 次期ビジョンの将来像と目標設定について
- (4) その他

第3回 宇治市水道事業経営審議会(令和2年9月9日)

議事

- 具体的施策・将来見通しについて
  - ① 基本理念と施策
  - ② 水需要の見通し
  - ③ 基本施策の紹介
  - ④ 投資計画と効果

---

#### 第4回 宇治市水道事業経営審議会(令和3年1月18日)

---

議事

- (1)「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」(初案)について
  - ①「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」初案
  - ②「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」概要版
- (2) 答申(素案)について
- (3) その他

---

#### 第5回 宇治市水道事業経営審議会(令和3年3月1日)

---

議事

- (1)「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」(最終案)について
  - ①「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」(初案)への意見等の概要および本市の回答について
  - ②「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」(初案)からの修正内容
  - ③「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」(最終案)
- (2) 答申(案)について
- (3) その他

---

#### 宇治市水道事業経営審議会より答申(令和3年3月9日)

---

「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」策定(令和3年3月末)

## 宇治市水道事業経営審議会委員名簿

選出区分	氏名	職名(団体名)
1	しみず としゆき 清水 聡行	立命館大学理工学部講師
2	にしがき やすゆき ◎西垣 泰幸	龍谷大学経済学部教授
3	やまもと しんいち 山本 真一	京都文教大学総合社会学部准教授
4	いき しょうじ 伊木 聖児	京都市上下水道局水道部長
5	むこはた ひでき ○向畑 秀樹	一般財団法人京都市上下水道サービス協会理事長
6	にして みえこ 西出 美恵子	宇治市女性の会連絡協議会
7	やすだ みゆき 保田 美幸	宇治商工会議所女性会副会長
8	やまだ よしなお 山田 良尚	連合京都南山城地域協議会議長
9	よこがわ ひとみ 横川 ひとみ	社会福祉法人宇治市社会福祉協議会理事
10	きべ しょういち 岐部 省一	株式会社平和堂アル・プラザ宇治東支配人
11	しまづ たまえ 島津 たまゑ	宇治市消費者団体連絡会
12	むかいやま ひろこ 向山 ひろ子	市民委員
13	やまざき のぶこ 山崎 信子	市民委員
14	とくだ あきこ 徳田 明子	税理士

(敬称略 ◎会長、○副会長、役職等は令和2年4月現在)